

津島神社周辺エリア観光ターミナル 整備運営事業(第一期事業)

募集要項(別添資料)

令和6年6月

津島市

目 次

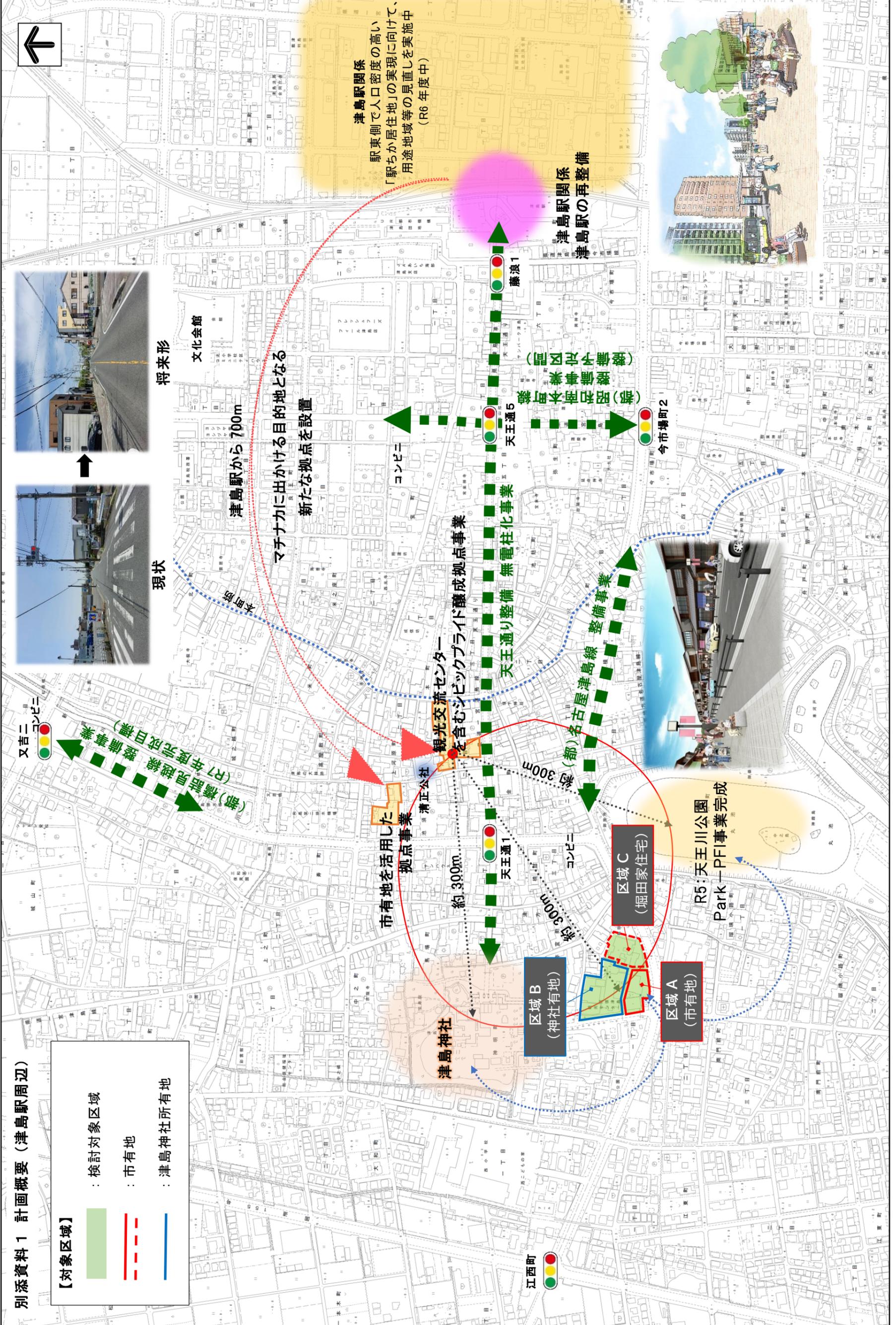
P1	別添資料 1	計画概要（津島駅周辺）
P2	別添資料 2	対象地周辺の現況（津島神社風致地区の位置情報等を含む。）
P4	別添資料 3	津島神社の駐車場配置
P5	別添資料 4	津島神社の参拝客数の推移（観光レクリエーション利用者統計）
P6	別添資料 5	堀田家住宅の来館者の推移
P7	別添資料 6	各お祭りの観光客数・地域のまちづくり活動
P11	別添資料 7	周辺の道路交通量
P15	別添資料 8	津島駅周辺まちづくり構想（案）
P48	別添資料 9	津島神社周辺の歴史
P50	別添資料 10	インフラ整備状況
P51	別添資料 11	地形測量図
P53	別添資料 12	堀田家住宅壁面写真
P54	別添資料 13	北側水路整備予定箇所
P55	別添資料 14	津島市ふるさと納税返礼品一覧
P69	別添資料 15	津島商工会議所優良特産推奨品一覧
P75	別添資料 16	貸付面積の区分イメージ
P76	別添資料 17	店舗用兼公衆用トイレ・津島おもてなしステーションの区分イメージ
P77	別添資料 18	津島おもてなしステーションの概要
P81	別添資料 19	マンホールポンプの位置及び仕様
P84	別添資料 20	津島市防災ハザードマップ（一部抜粋）
P89	別添資料 21	土質調査報告書
P158	別添資料 22	スマートフォンの GPS 位置情報データを用いた津島神社及び天王川公園の来訪者数※

※別添資料 22 については、管理者が公表するデータではないので市ホームページに掲載することは控え、第 5 章／2／（2）に示す「補足資料の提供」により、平面図（地形測量図）の CAD データと合わせ申込者に提供する。

別添資料1 計画概要（津島駅周辺）

【対象区域】

- : 検討対象区域
- : 市有地
- : 津島神社所有地



別添資料 2 対象地周辺の現況

■津島神社 東の鳥居



■津島神社 儀礼殿



■津島神社 参道



■津島神社 参集所



■津島神社 茶室



■旧・尾張津島観光センター（令和6年度前期取壊し）



■津島警察署天王交番



■津島神社 南の鳥居



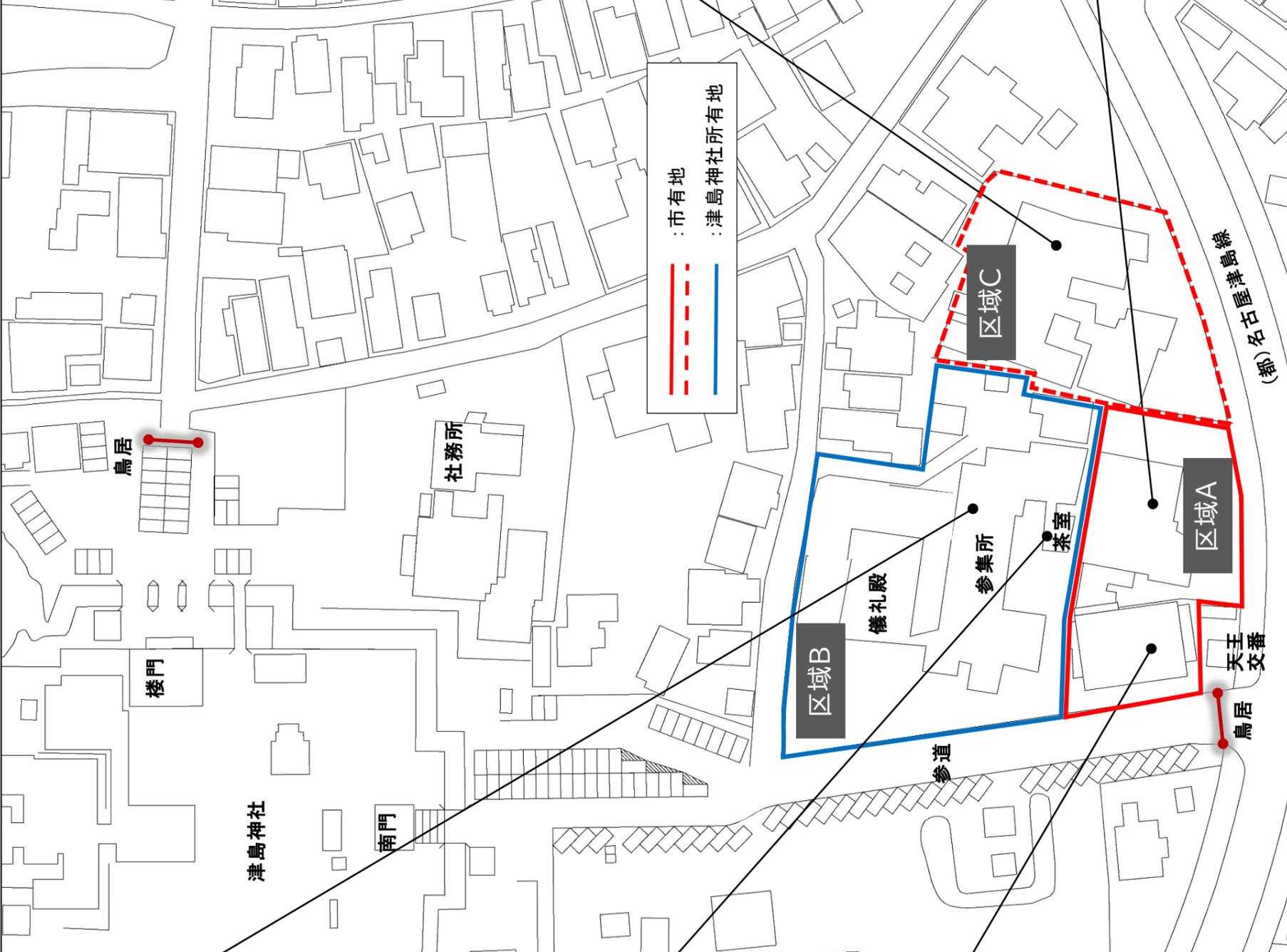
■堀田家住宅（重要文化財）
⇒利活用を検討中



■旧・わざ・語り・伝承の館
（令和6年度前期取壊し）



— — — — — : 市有地
————— : 津島神社所有地

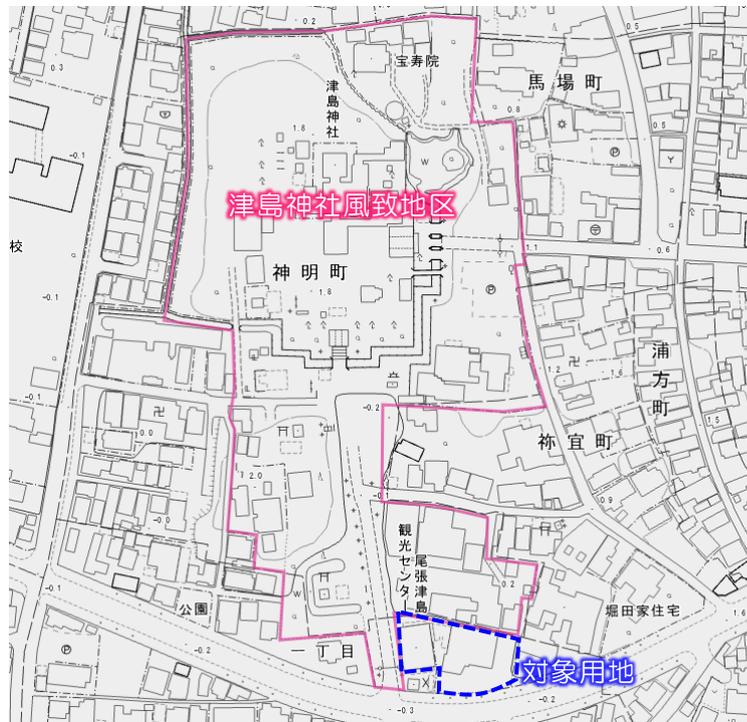


(都)名古屋津島線



風致地区について

対象用地の北側は、「津島神社風致地区」に指定されています。当該風致地区は、「津島市風致地区区内における建築等の規制に関する条例」で定めている第3種風致地区として、風致地区区内における建築物の新築や木竹の伐採などの行為を行う場合に、下表を満たすことが条件とされています。



■第3種風致地区区内における許可等の基準

項目	基準内容										
1. 建築物の建築、その他の工作物の建設	<ul style="list-style-type: none"> ○建築物等の位置、形態、意匠などが周辺の風致と調和すること ○建築物が周辺の地面と接する位置の高低差が6メートル以下であること ○建築物の高さ、建蔽率、外壁の後退距離は次の基準を満たすこと <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">建物高さ (メートル)</th> <th rowspan="2">建蔽率 (パーセント)</th> <th colspan="2">外壁の後退距離(メートル)</th> </tr> <tr> <th>接道部</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15以下</td> <td>40以下</td> <td>2以上</td> <td>1以上</td> </tr> </tbody> </table>	建物高さ (メートル)	建蔽率 (パーセント)	外壁の後退距離(メートル)		接道部	その他	15以下	40以下	2以上	1以上
建物高さ (メートル)	建蔽率 (パーセント)			外壁の後退距離(メートル)							
		接道部	その他								
15以下	40以下	2以上	1以上								
2. 土地の形質の変更	<ul style="list-style-type: none"> ○周辺を含む木竹の生育に支障を及ぼすおそれが少ないこと ○緑地率、のりの高さ等は次の基準を満たすこと <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">緑地率 (パーセント)</th> <th colspan="2">切土・盛土ののりの高さ等(メートル)</th> </tr> <tr> <th>1ヘクタール超</th> <th>1ヘクタール以下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30以上</td> <td>5以下</td> <td>5メートルを超える場合、植栽等の措置</td> </tr> </tbody> </table>	緑地率 (パーセント)	切土・盛土ののりの高さ等(メートル)		1ヘクタール超	1ヘクタール以下	30以上	5以下	5メートルを超える場合、植栽等の措置		
緑地率 (パーセント)	切土・盛土ののりの高さ等(メートル)										
	1ヘクタール超	1ヘクタール以下									
30以上	5以下	5メートルを超える場合、植栽等の措置									
3. 木竹の伐採	<ul style="list-style-type: none"> ○木竹の伐採が周辺の風致を損なうおそれが少ないこと ○建築物等の新築、宅地の造成等を行うための最小限度の伐採にすること 										
4. 建築物等の色彩の変更	○変更後の色彩が周辺の風致と調和すること										
5. 水面の埋立又は干拓	<ul style="list-style-type: none"> ○水面の埋立て又は干拓が周辺の風致と調和すること ○周辺を含む木竹の生育に支障を及ぼすおそれが少ないこと 										
6. 土石の類の採取	○採取の方法が、周辺の風致の維持に支障を及ぼすおそれが少ないこと										
7. 屋外の土石等の堆積	○堆積行為が、周辺の風致の維持に支障を及ぼすおそれが少ないこと										

資料：津島市歴史的風致維持向上計画

別添資料 3 津島神社の駐車場配置

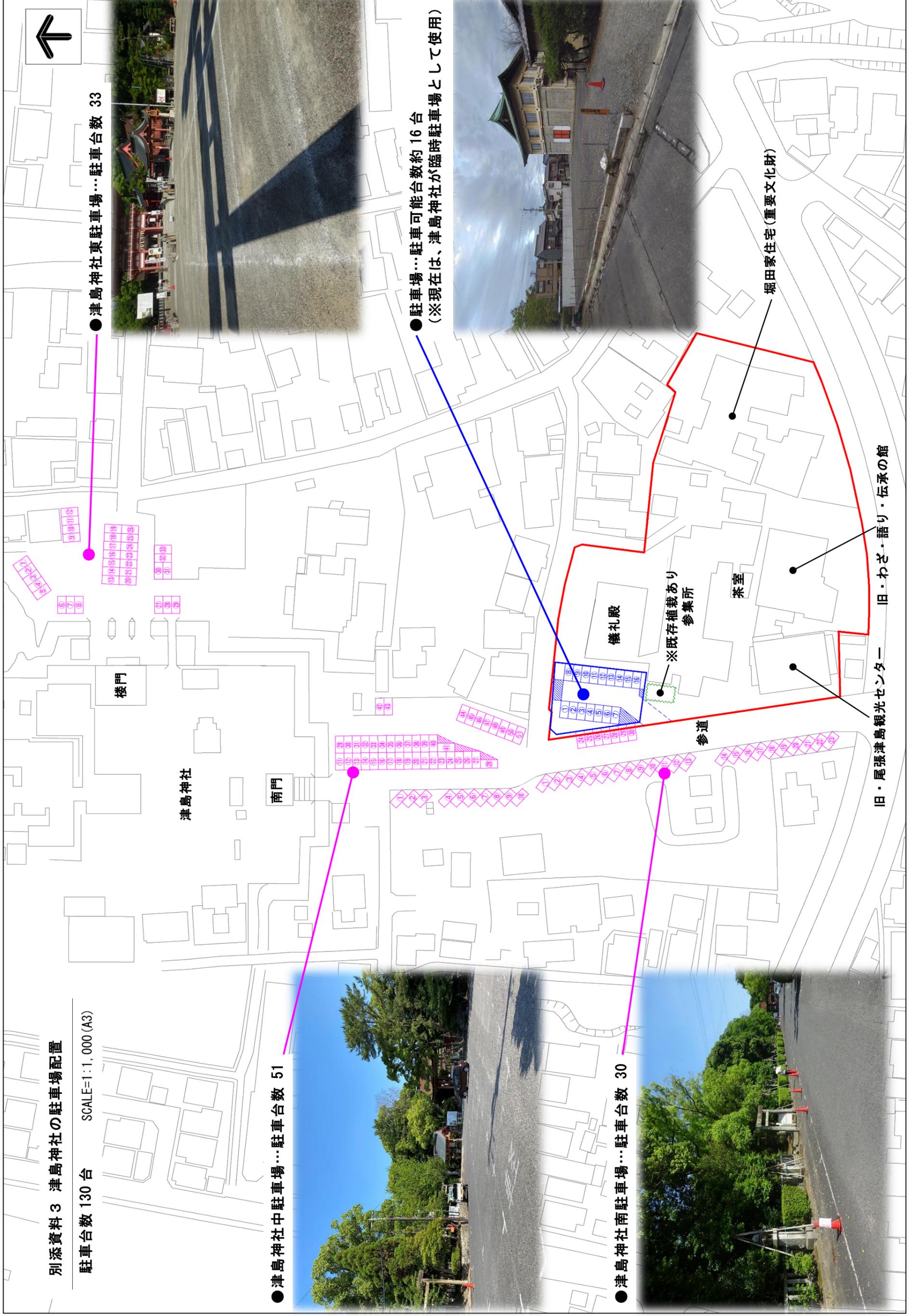
駐車台数 130 台 SCALE=1:1,000 (A3)

● 津島神社中駐車場…駐車台数 51

● 津島神社南駐車場…駐車台数 30

● 津島神社東駐車場…駐車台数 33

● 駐車場…駐車可能台数約 16 台
(※現在は、津島神社が臨時駐車場として使用)



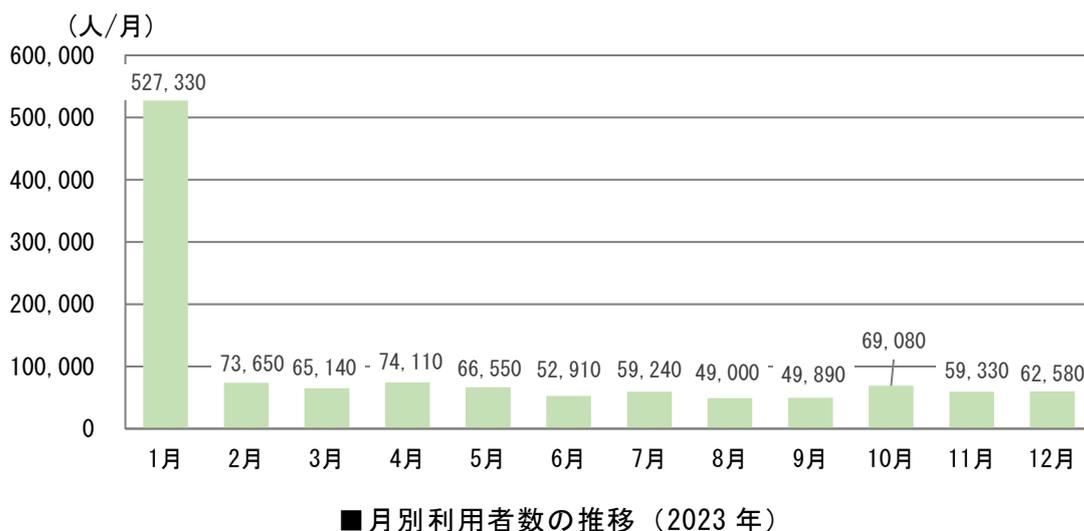
別添資料4 津島神社の参拝客数の推移

1. 津島神社の参拝客数の推移

津島神社は、愛知県内でも有数の観光施設となっています。愛知県の観光レクリエーション利用者統計によると、過去10年間では概ね100万人で推移しており、2023年は約120万人と最も多くなっています。

天王祭が通常開催された2023年の月別利用者数の推移を見ると、1年のうち最も利用者が多いのは初詣のある1月となっており、年間利用者数の約4割を占めています。その他の月については、約5万～8万人となっています。

なお、観光レクリエーション利用者統計のデータについては、お賽銭の数から整理されているとのことです（津島神社より情報提供）。

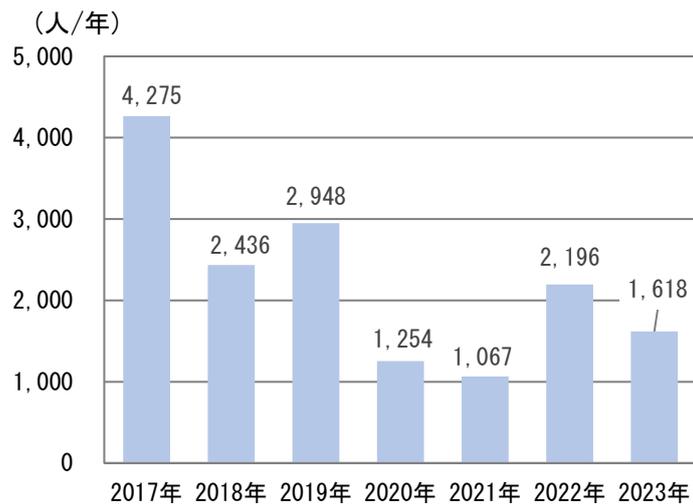


資料：観光レクリエーション利用者統計

別添資料5 堀田家住宅の来館者数の推移

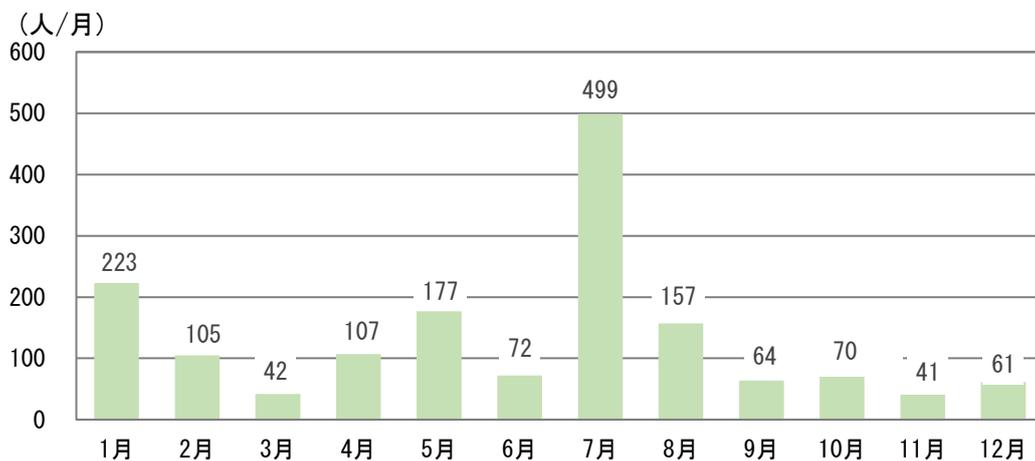
年間利用者数は2017年の約4千人がピークとなっており、以降は減少傾向となっています。なお、2020年、2021年は約千人と、コロナ禍の影響を受けていると考えられます。

2023年の月別利用者数の推移を見ると、1年のうち最も利用者が多いのは7月となっていますが、月別の傾向は各年によって異なります。



■年間利用者数の推移

資料：津島市



■月別利用者数の推移 (2023年)

資料：津島市

別添資料 6 各お祭りの観光客数・地域のまちづくり活動

1. 各お祭りの観光客数

(1) 尾張津島天王祭

尾張津島天王祭は、日本三大川まつりのひとつで、津島神社の祭礼として約600年の歴史があり、絢爛豪華な祭として知られています。宵祭では、提灯を灯した5艘の巻藁舟が天王川を漕ぎ出し、朝祭では、市江車を加えた6艘の車楽舟が漕ぎ渡ります。

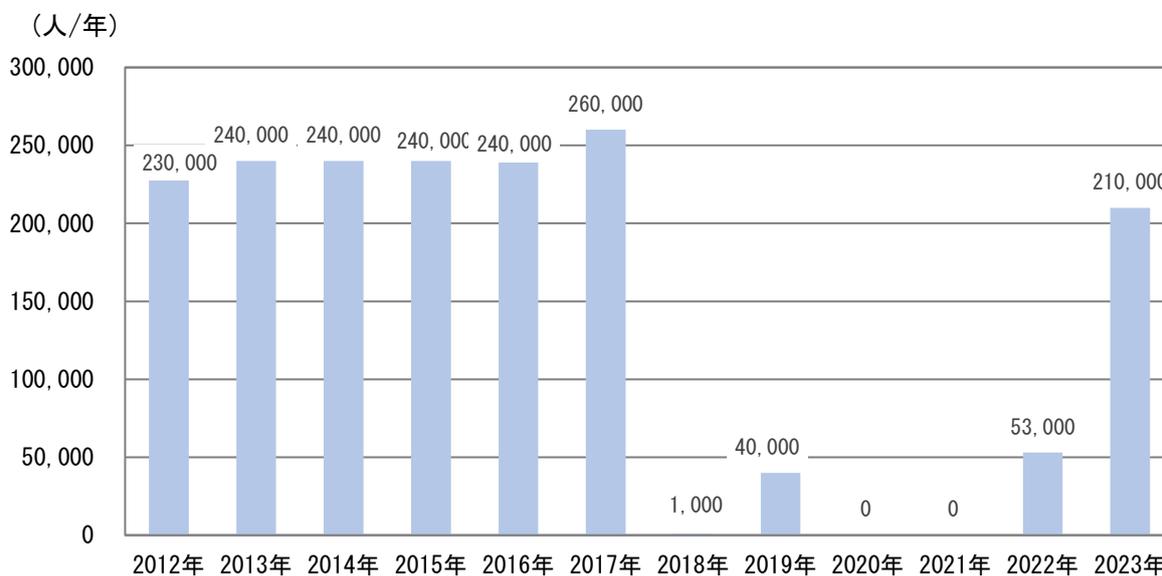


開催日程	7月第4土曜日、日曜日
開催場所	津島神社、天王川公園

また、昭和55年に「尾張津島天王祭の車楽舟行事」が国の重要無形民俗文化財に指定されており、平成28年12月には33件の「山・鉦・屋台行事」のひとつとして、ユネスコ無形文化遺産に登録されています。

来訪者数の推移を見ると、2017年までは、毎年約23万～26万人の観光客が訪れています。2018年以降は、悪天候による宵祭の中止や新型コロナウイルスの影響による祭の中止や縮小開催により、観光客数が減少していましたが、2023年は6年ぶりに20万人を超える観光客が訪れました。

来訪者数の推移を見ると、2017年までは、毎年約23万～26万人の観光客が訪れています。2018年以降は、悪天候による宵祭の中止や新型コロナウイルスの影響による祭の中止や縮小開催により、観光客数が減少していましたが、2023年は6年ぶりに20万人を超える観光客が訪れました。



■ 来訪者数の推移

(2) 尾張津島藤まつり

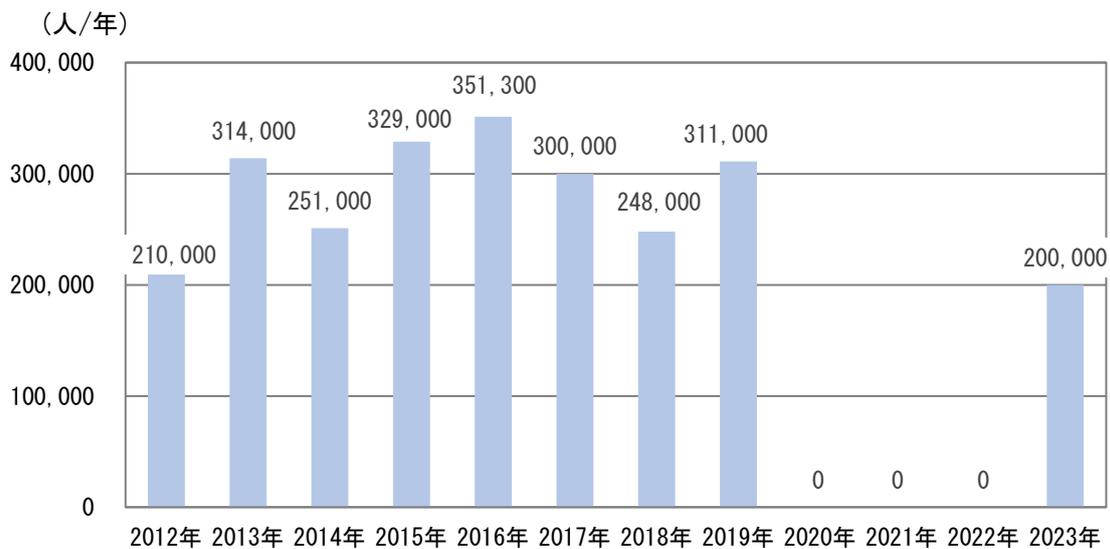
かつて津島市は「藤浪の里」といわれたほどの藤の名所で、尾張津島藤まつりは、その名残を伝えています。会場となる天王川公園には、長さ275m、面積約5,034㎡の藤棚があり、まつり期間中、夜間はライトアップされています。

会場では家族で楽しめるイベント、まちなかでは津島の歴史の古さを物語る町家等、様々なイベントが開催されています。

来訪者数の推移を見ると、近年で最も多い2016年は351,300人となっています。その他の年についても、毎年約20万～30万人の来訪者が訪れています。2020年～2022年は新型コロナウイルスの影響により、祭りが中止となっています。



開催日程	4月下旬～5月上旬
開催場所	天王川公園とその付近



■ 来訪者数の推移

(3) 尾張津島秋まつり

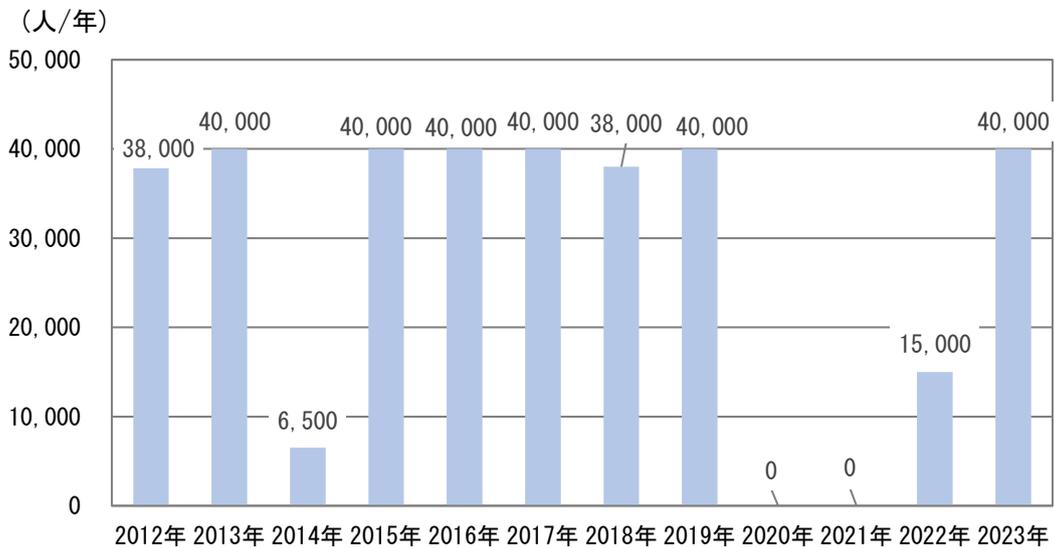
尾張津島秋まつりは、18世紀の始めごろに始まったと言われています。

からくり人形をのせた絢爛豪華な山車が七切、向島、今市場、神守の4地区から計16台(うち2台は休止中)が賑やかに練り出されます。どの山車も100年以上の歴史があり、大切な文化財となっています。

来訪者数の推移を見ると、毎年約40,000人の観光客が訪れています。2020年、2021年は新型コロナウイルスの影響により、祭りが中止となっています。



開催日程：10月の第1日曜日とその前日の土曜日
開催場所：津島神社、津島駅など



■ 観光客数の推移

2. 地域のまちづくり活動

津島神社や対象区域周辺では、東海三県で寺密度ナンバー1（面積当たりの寺数）の特性や茶の湯文化を活かしたまち歩きやお茶会や、マルシェや謎解きゲームなど、様々なイベントが開催されています。

■最近のイベント開催状況

No	イベント	運営等	実施年
1	津島まち歩きツアー	主催:市、企画・運営:OSHI・津島おもてなしコンシェルジュ	H28～
2	謎解きゲーム	主催:市、共催:OSHI	H30～ R1
3	津島てら・まち御縁結び	主催:市	R30.7～
4	津島おもてなしコンシェルジュ	主催:市、企画運営:OSHI	-
5	津島おもてなしステーション	登録数:100箇所	H28～
6	津島でら寺巡り	主催:津島れんげの会(市民活動団体)	H27～ R2
7	津島霊場巡り	霊場会、NPO法人まちづくり津島(市民活動団体)	H29～
8	お月見灯路	霊場会、NPO法人まちづくり津島(市民活動団体)	H30～
9	門前朝市	主催:津島神社門前朝市実行委員会	-
10	津島こい♡こいマルシェ	-	-
11	Lumier Festival	企画・制作・運営:あきまる(市民活動団体)	-
12	OPEN DAY 240(ツシマ)	-	-
13	大ジャンケン大会	主催:津島市商店街連合会、後援:津島商工会議所	-
14	津島てら・まち御縁結び	主催:市	-
15	津島体験プログラム	運営:一般社団法人津島小商い創出支援機構	-
16	お花見ツアー	主催:津島ガイドボランティア	-
17	津島野点大茶会	主催:津島ガイドボランティア	-



■No. 3 津島てら・まち御縁結び



■No. 16 津島体験プログラム

別添資料7 周辺の道路交通量

(1) 道路網

津島駅周辺の道路網としては、天王通りは、津島駅と津島神社をつなぐ道路で、津島市の玄関口となるシンボル道路として、また、津島神社の参道として機能しています。検討対象区域の前面道路は（主）名古屋津島線となっていますが、現道は都市計画道路として計画決定されている線形と異なっています。



■天王通線周辺の道路網図

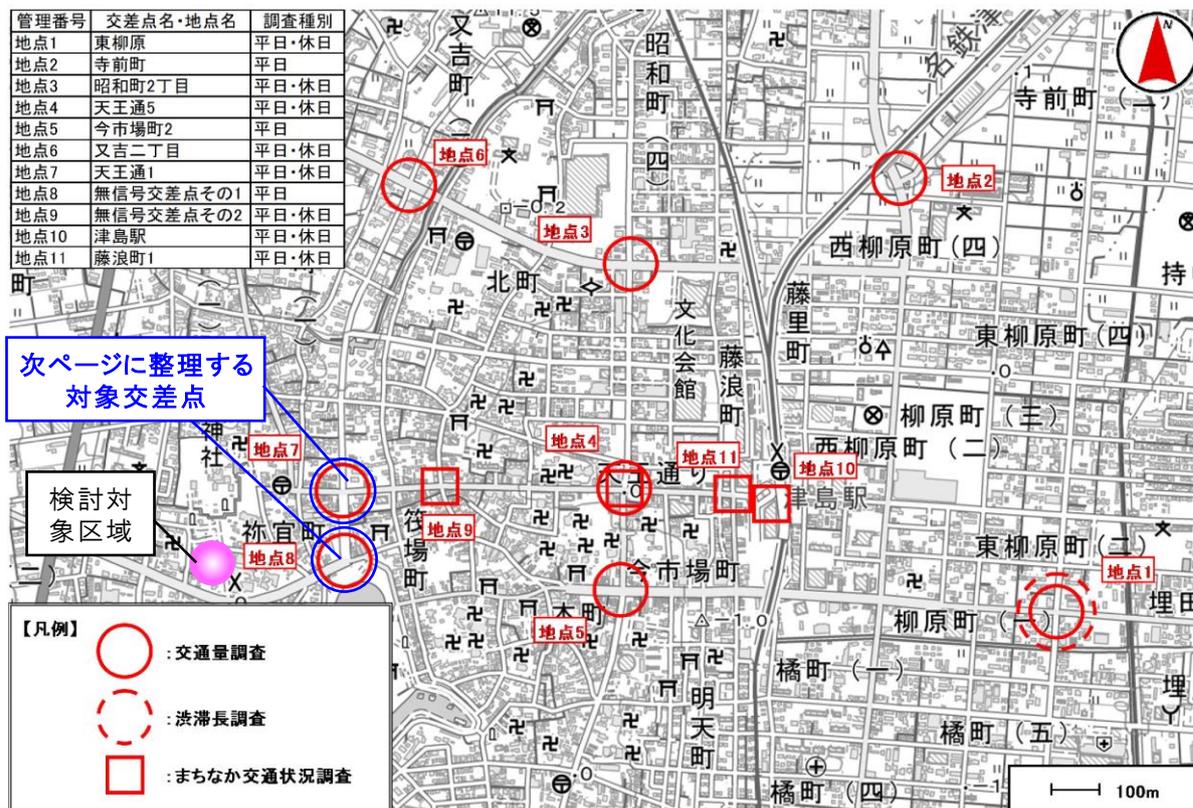
(2) 実態調査による交通量

交通量は、令和2年度津島市都市計画道路見直し検討業務委託において、平日・休日の各1日に交通量調査を実施しており、その結果を整理します。

調査の概要は下表のとおりであり、7時～19時の12時間調査が行われていました。

調査種別	調査日時
平日	令和3年2月25日(木) 7:00～19:00
休日	令和3年2月28日(日) 7:00～19:00

令和2年度津島市都市計画道路見直し検討業務委託では、下記の通り、11の地点で調査が行われていましたが、ここでは、津島神社に関連のある「地点7：天王通1交差点」と「地点8：無信号交差点その1」を整理します。



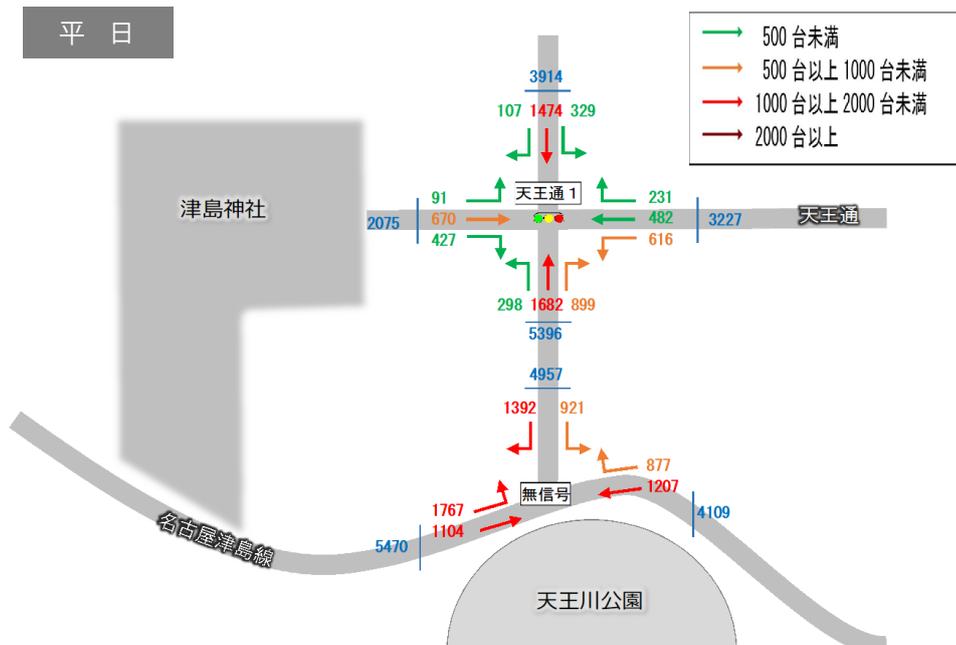
■天王通線周辺の道路網図

資料：令和2年度津島市都市計画道路見直し検討業務委託の成果を一部編集

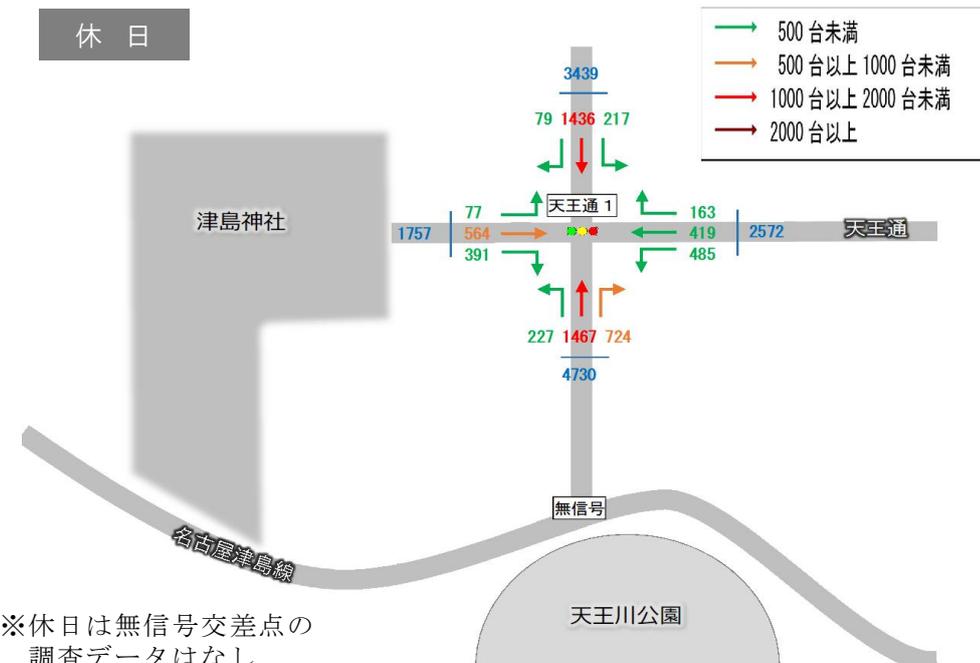
平日、休日別の交通量調査結果は下図の通りとなっています。

平日の天王通1の西側の津島神社側の交通量としては、断面で2075台/12時間となっています。名古屋津島線については、無信号交差点の西側では5,470台/12時間、東側では4,109台/12時間となっています。

休日の天王通1の交差点交通量は平日と比較し80~85%程度となっています。



■ 12 時間交通量 (平日)

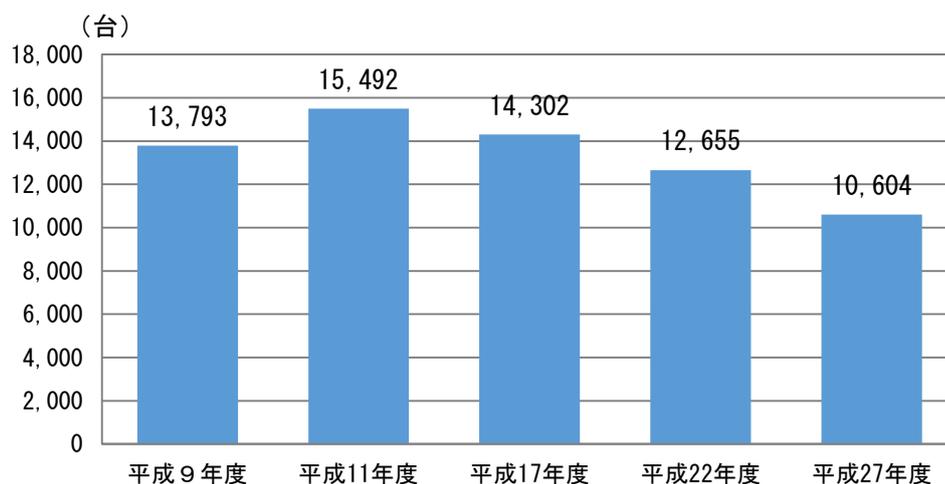


■ 12 時間交通量 (休日)

(3) 道路交通センサによる交通量

津島神社前の名古屋津島線道路（古川町一丁目）の道路交通センサにおける交通量を整理します。

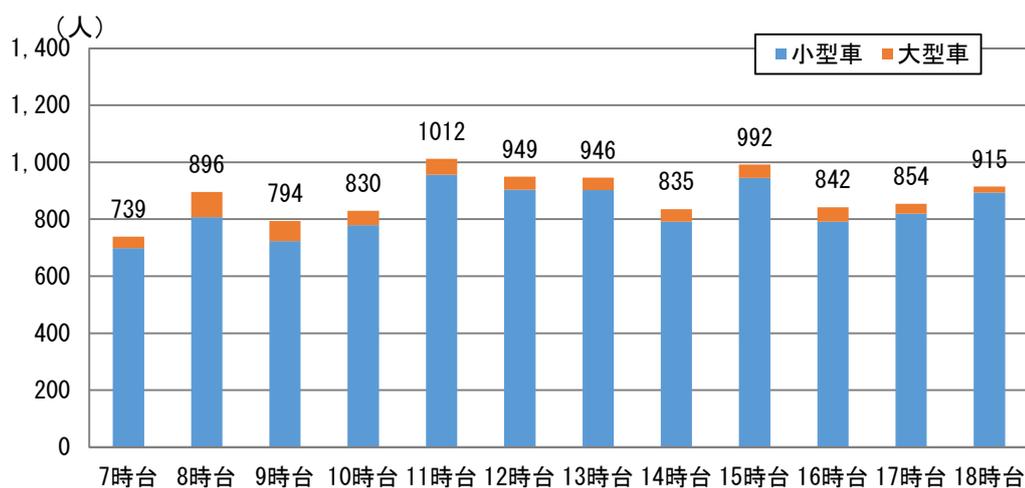
下図は、平日昼間 12 時間交通量の経年的な変化で、平成 11 年度がピークで 15,492 台となっていますが、その後は減少傾向となっており、平成 27 年度時点では 10,604 台となっています。



■名古屋津島線の昼間 12 時間交通量

資料：道路交通センサ

平成 27 年度の道路交通センサにおける時間帯別交通量は下記の通りとなっており、いずれの時間帯も、800～1,000 台の交通量がみられます。



■時間帯別交通量

資料：平成 27 年度道路交通センサ

津島駅周辺まちづくり構想（案）

目 次

1. はじめに	・・・ 1		
(1) まちづくり構想の背景と目的	・・・ 1		
(2) まちづくり構想の対象範囲	・・・ 1		
(3) まちづくり構想の背景と目的	・・・ 2		
(4) 津島市都市計画マスタープランでの対象エリアの位置づけ	・・・ 3		
2. 津島市中心部の成り立ち	・・・ 4		
3. 対象エリアの現状	・・・ 5		
(1) 人口の動向	・・・ 5		
(2) 天王通りの人通り	・・・ 5		
(3) 暮らしの場としての現状	・・・ 6		
(4) 活動の場（目的地）としての現状	・・・ 8		
(5) 働く場としての現状	・・・ 10		
(6) 歩行空間の現状	・・・ 11		
(7) 周辺地域からのアクセス環境	・・・ 12		
(8) 市民ニーズ	・・・ 13		
(9) 対象エリアの課題	・・・ 14		
4. 地域の目指す姿	・・・ 15		
(1) 将来像	・・・ 15		
(2) キャッチフレーズ	・・・ 15		
(3) 将来のまちなかの風景	・・・ 16		
(4) 活かすべき地域の特色（ゾーニング）	・・・ 17		
(5) まちなかの骨格構造 （拠点とネットワーク）	・・・ 18		
(6) 地域づくりの方針	・・・ 19		
5. 重点的な取り組み	・・・ 20		
(1) 戦略的な取り組み（実施ステップ）	・・・ 20		
(2) 各ステップの狙い	・・・ 21		
(3) 各ステップの重点施策	・・・ 24		
6. 継続的な構想の推進に向けて	・・・ 26		
7. 各エリアのイメージ図	・・・ 28		

1. はじめに

(1) まちづくり構想の背景と目的

✓ 津島市では、人口減少に対応するために、津島駅周辺を中心に拠点としたコンパクトシティの形成を進めています。この中で、本市で最もポテンシャルのある名鉄津島駅周辺において、まちなか居住の促進と生活利便性の向上を図ることは、持続可能な都市を形成するために重要な取り組みです。

✓ 対象エリアには、市内外から年間約100万人が訪れる津島神社など、これまで市民や地域の人々により守られてきた貴重な地域資源があり、多くの人が訪れるエリアとして、都市環境が整い、地域経済が発展することは、市全体のシティプロモーションを推進する上でも重要です。

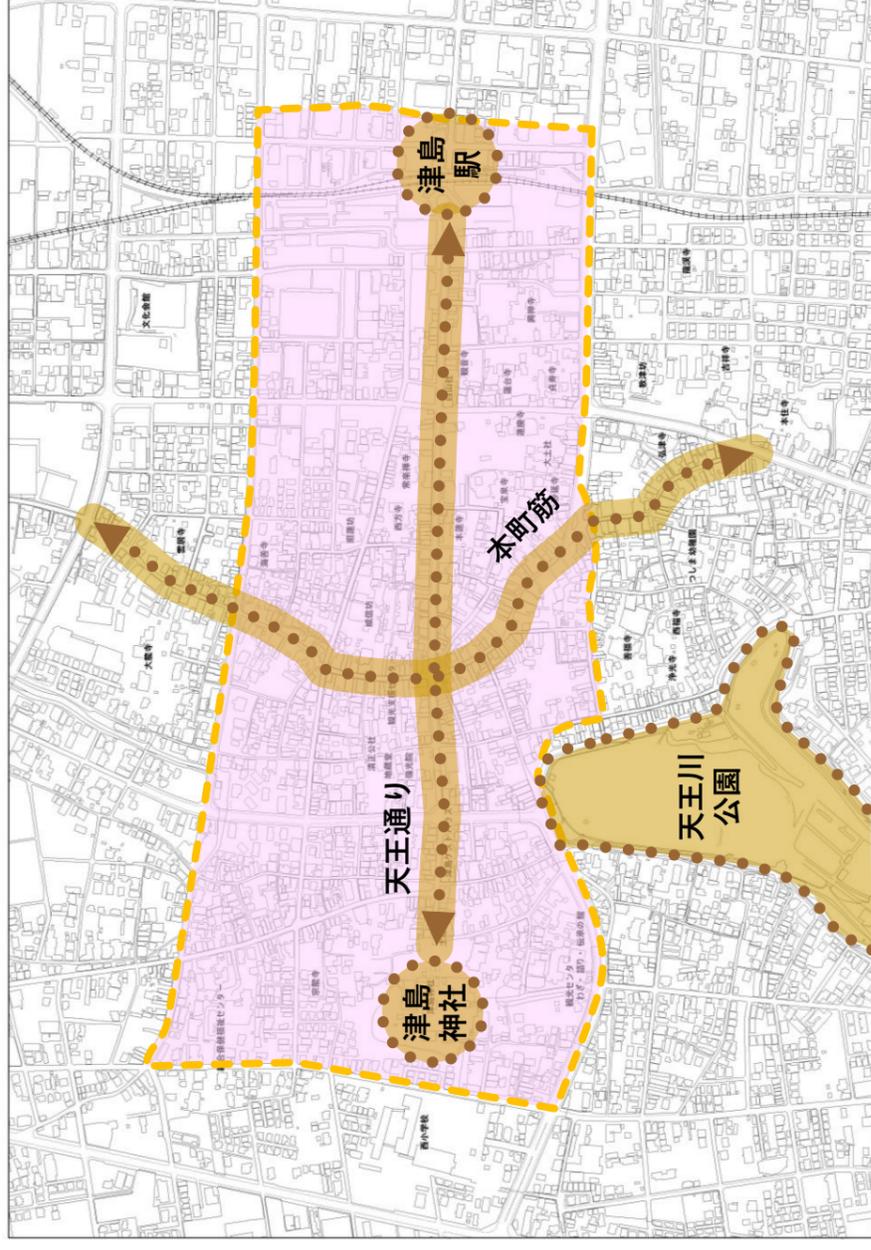
✓ この地域では、これまでも様々な取り組みが行われてきましたが、効果的な取り組みを進めるためには、市民・地元事業者・交通事業者・関係団体・行政等が一体となって、戦略的な視点を持って計画的にまちづくりを進めていく必要があります。

✓ 本構想は、津島駅周辺の特に西側地域を対象として、多様な関係者の連携と創意工夫の下に、効果的なまちづくりを進めていくため、目指すべきまちの将来像や、実現に向けた考え方、重点的な取り組みを、共通理解を図るために策定します。

(2) まちづくり構想の対象範囲

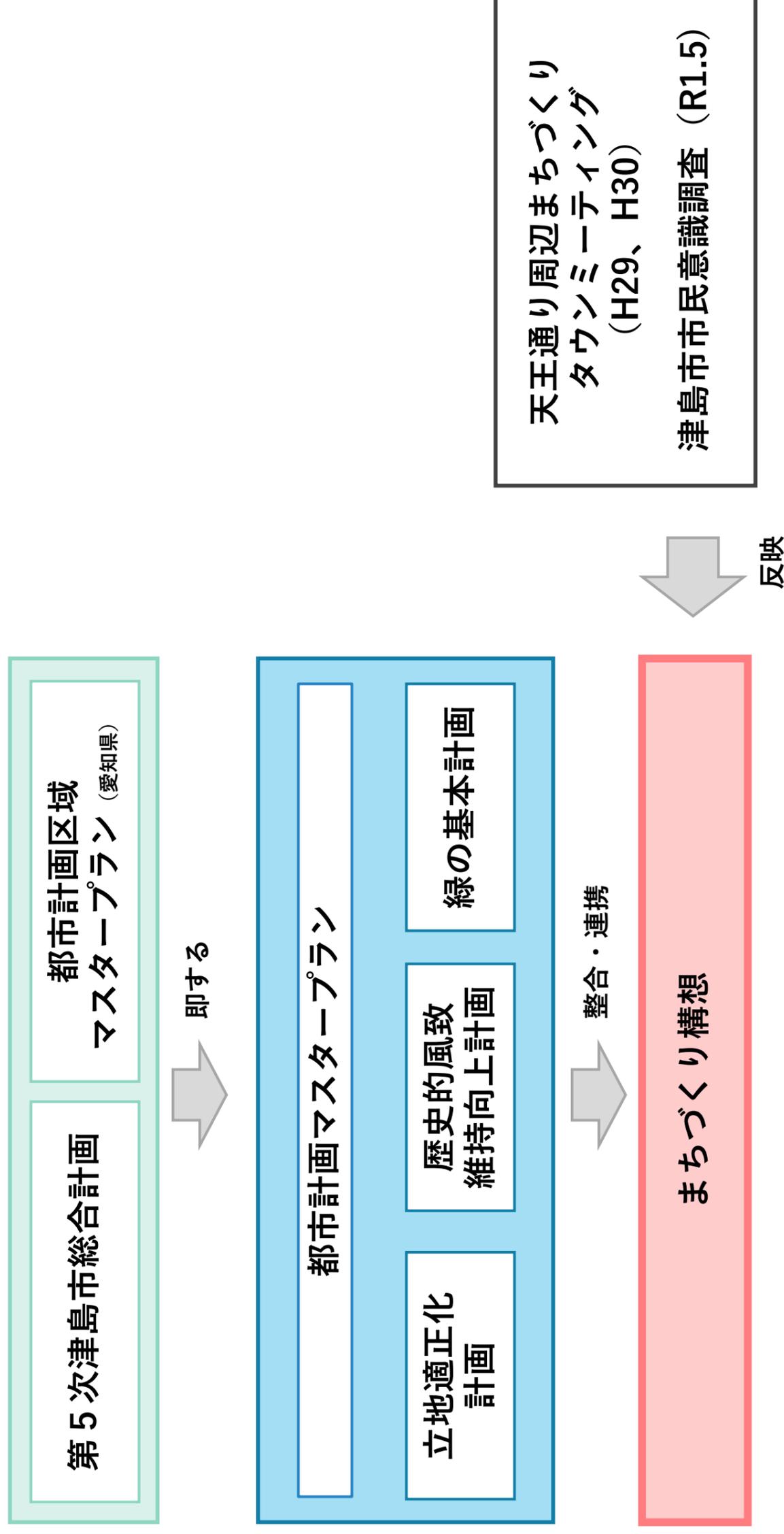
✓ 本構想の範囲は、津島駅と津島神社を結ぶ天王通り周辺の市街地と、貴重な地域資源である本町筋や天王川公園を含むエリアを対象とします。

■ (仮称) まちづくり構想の対象範囲



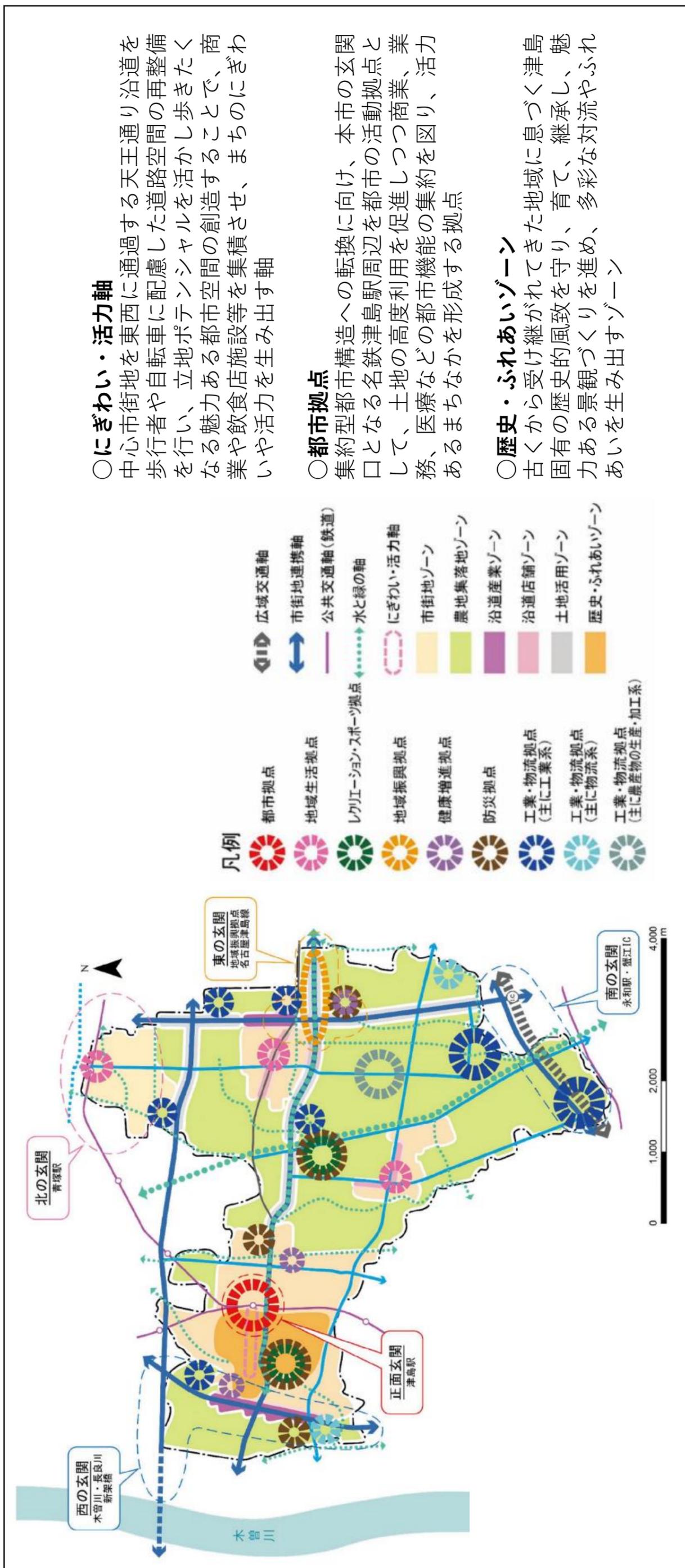
(3) まちづくり構想の背景と目的

- ✓ 本構想の上位計画である「第5次津島市総合計画」「都市計画マスタープラン」のほか、関連計画との整合・連携を図ります。
- ✓ これまでに実施した天王通り周辺まちづくりタウンミーティング等による、地元にお住まいの方を含めた市民の意向を反映させながら施策等を検討します。



(4) 津島市都市計画マスタープランでの対象エリアの位置づけ

- ✓ 今後、本市では人口減少が進み財政状況も深刻化することが予測されることがから、これからのまちづくりとして、新しいものをつくり続けるのではなく既存ストックを賢く活用しながら、多様な世代が暮らしやすいコンパクトシティへと転換していくことが重要です。
- ✓ 都市計画マスタープランでは、将来の都市構造に向けて、津島駅周辺を都市拠点に位置付け多くの人が交流する「本市の正面玄関」として魅力的な市街地形成を目指すこととしています。



2. 津島市中心部の成り立ち

- ✓ 鎌倉時代以降、湊町として発展してきた本市の中心部は、江戸時代には、村ではあったものの、湊町そして津島牛頭天王社の門前町という2つの特徴を持つ都市として発展していた。
- ✓ 明治期に入り、津島駅からの鉄道が開通するとともに、昭和初期に天王通線が整備されて、商店街として栄えてきた。
- ✓ 現在は、都市部への人口流出など様々な要因により、往時の繁栄から遠ざっているが、一方で、平成28年に「尾張津島天王祭の車楽舟行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、現在まで受け継いできた独自の歴史・文化が注目されている。

■津島市中心部の成り立ちの概要

●湊町としての津島

- ・天王川の川湊。中世より伊勢、桑名と往来する交通の要衝として栄えた。
- ・「津島五ヶ村」が地域経済を支え、現在の天王祭の車楽舟（だんじり舟）を出す5町会へとつながる。
- ・湊町は天王川東岸、対岸の向島にある天王社（津島神社）とは橋で結ばれていた。

●門前町としての津島

- ・中世より、京都・祇園社（八坂神社）以東で最も由緒ある神社のひとつ津島牛頭天王社（津島社）の門前町として栄えた。
- ・津島牛頭天王社の参道につながる津島上街道は、お蔭参りの風習が盛んになり栄えた。
- ・明治に入ると、新政府が神仏分離令を出し、津島牛頭天王社は津島神社へと改称した。

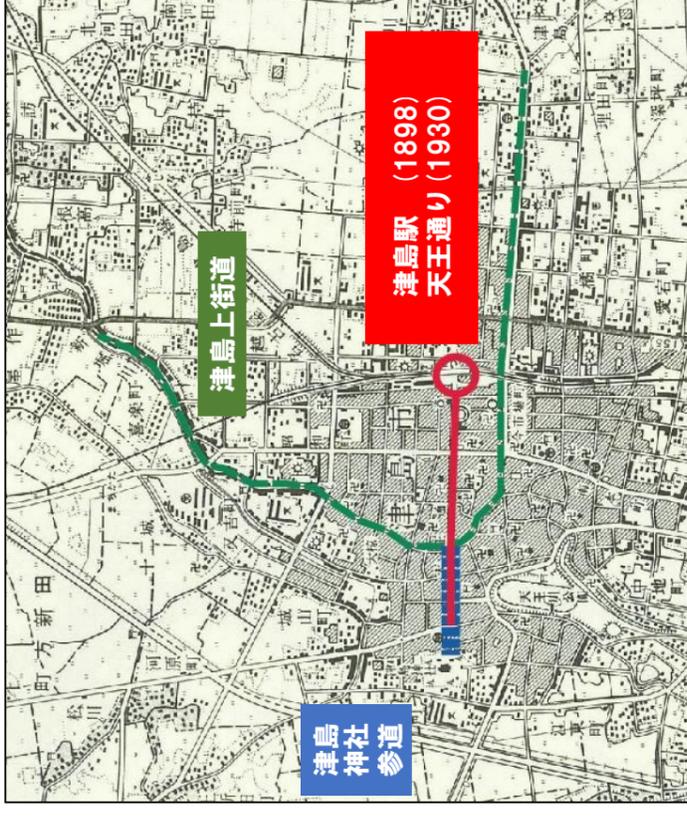
●近代における津島

- ・1898年：津島駅～弥富駅間の鉄道が開通
- ・1901年：津島湊閉鎖
- ・1914年：津島駅～枇杷島橋駅間の鉄道が開通
- ・1930年：天王通り整備、商店街として栄える
- ・1950年ごろ：綿・毛織産業の絶頂期を迎える

■1898年の津島市中心部



■1968年の津島市中心部



資料：国土地理院1/25,000地形図に加筆

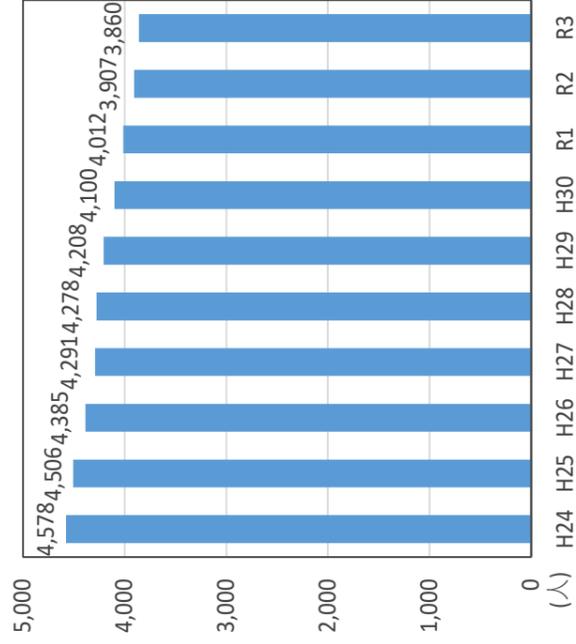
資料：津島市歴史的風致維持向上計画

3. 対象エリアの現状

(1) 人口の動向

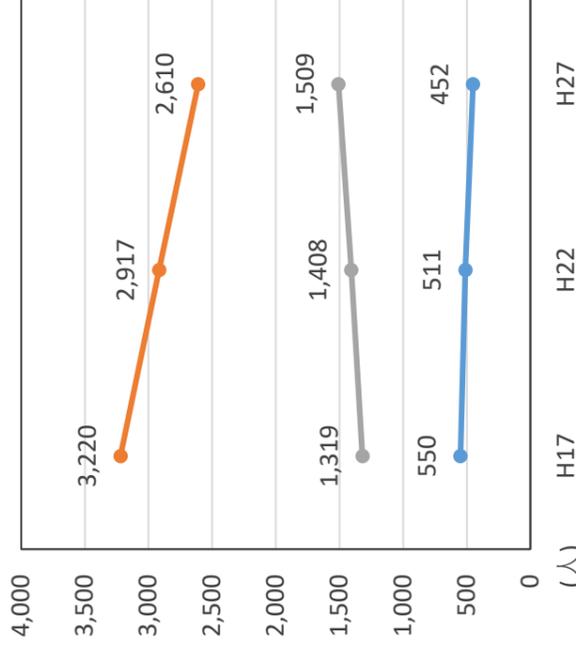
- ✓ 対象エリアでは、市全体の動向と同様に人口減少が進行しています。
- ✓ 特に、今後のまちづくりを支えていく年少世代（15歳未満）と生産年齢世代（15～64歳）の人口が減少しています。

■人口の推移



資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

■年齢区分別人口の推移

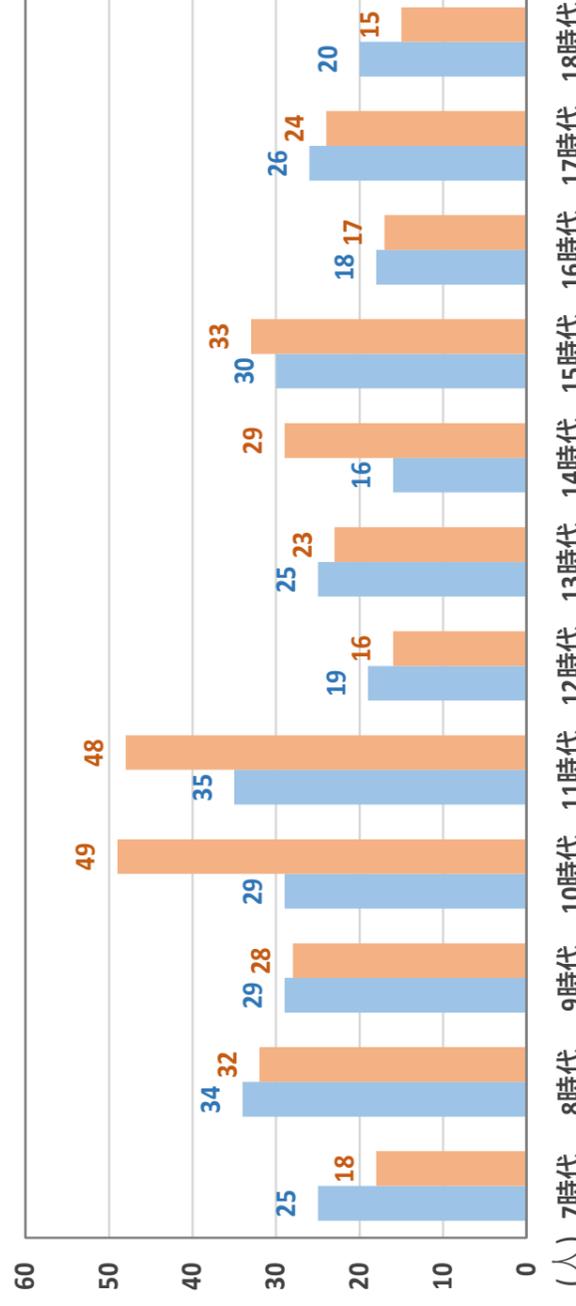


資料：国勢調査

(2) 天王通りの人通り

- ✓ 対象エリアの東西軸を形成している天王通りの歩行者数は、平日・休日ともピーク時間帯で1人/分未満であり、少ない状況です。
- ✓ そうした中でも、平日は、通勤・通学時間帯と11時ごろが多く、休日は10～11時台が多くなっています。

■天王通り(本町筋との交差点)の東西方向の12時間歩行者交通量 (R3.2)



資料：津島市資料

今後のまちを担う世代が減少しています

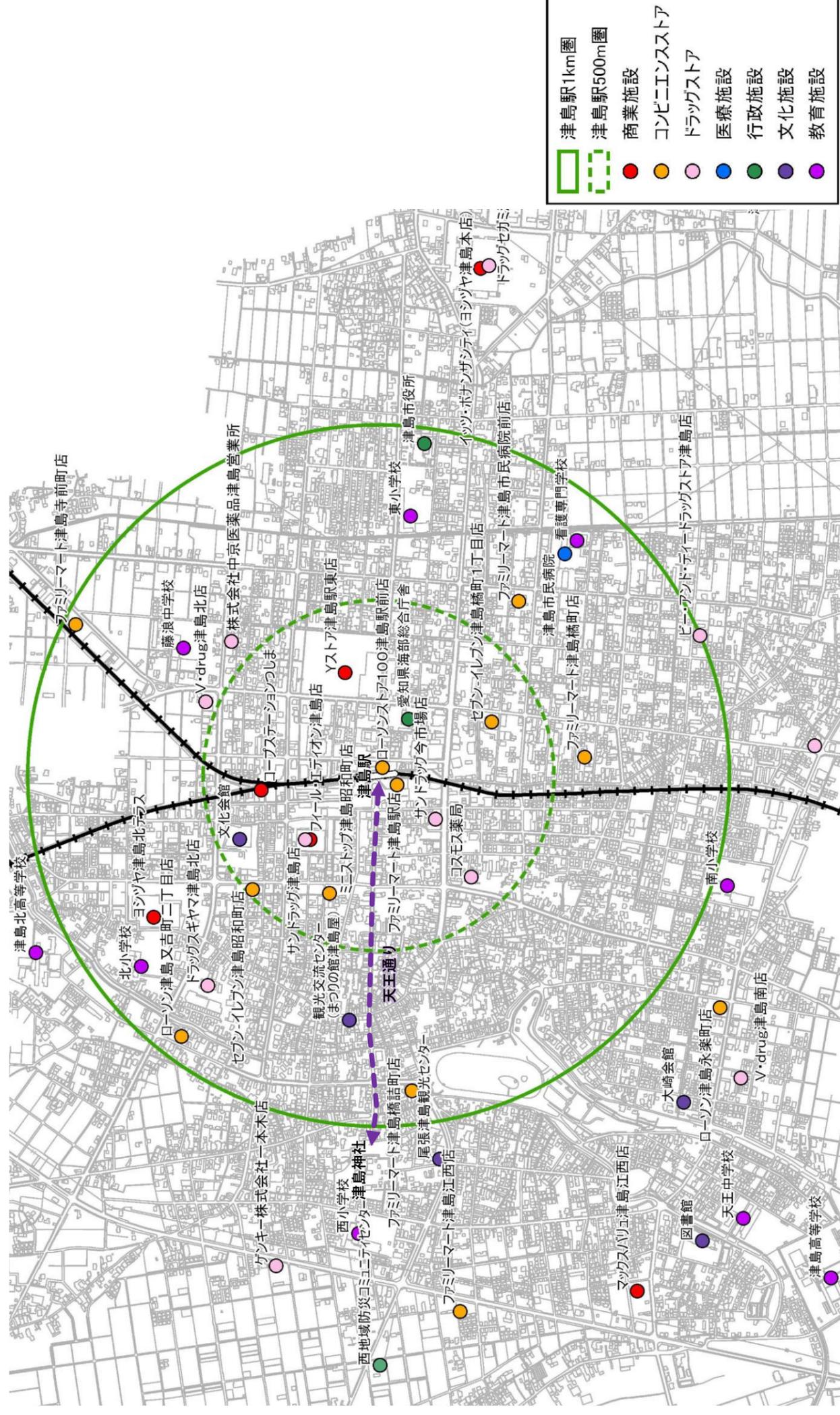
日常のまちなかは、ひとけがまばらです

(3) 暮らしの場としての現状

①対象エリア周辺の生活利便施設の立地状況

✓ 天王通り周辺には、歩いて行ける範囲に日用品等を扱う店舗が立地し、市内でも日常生活の利便性は高い地域です。

■生活利便施設の立地状況



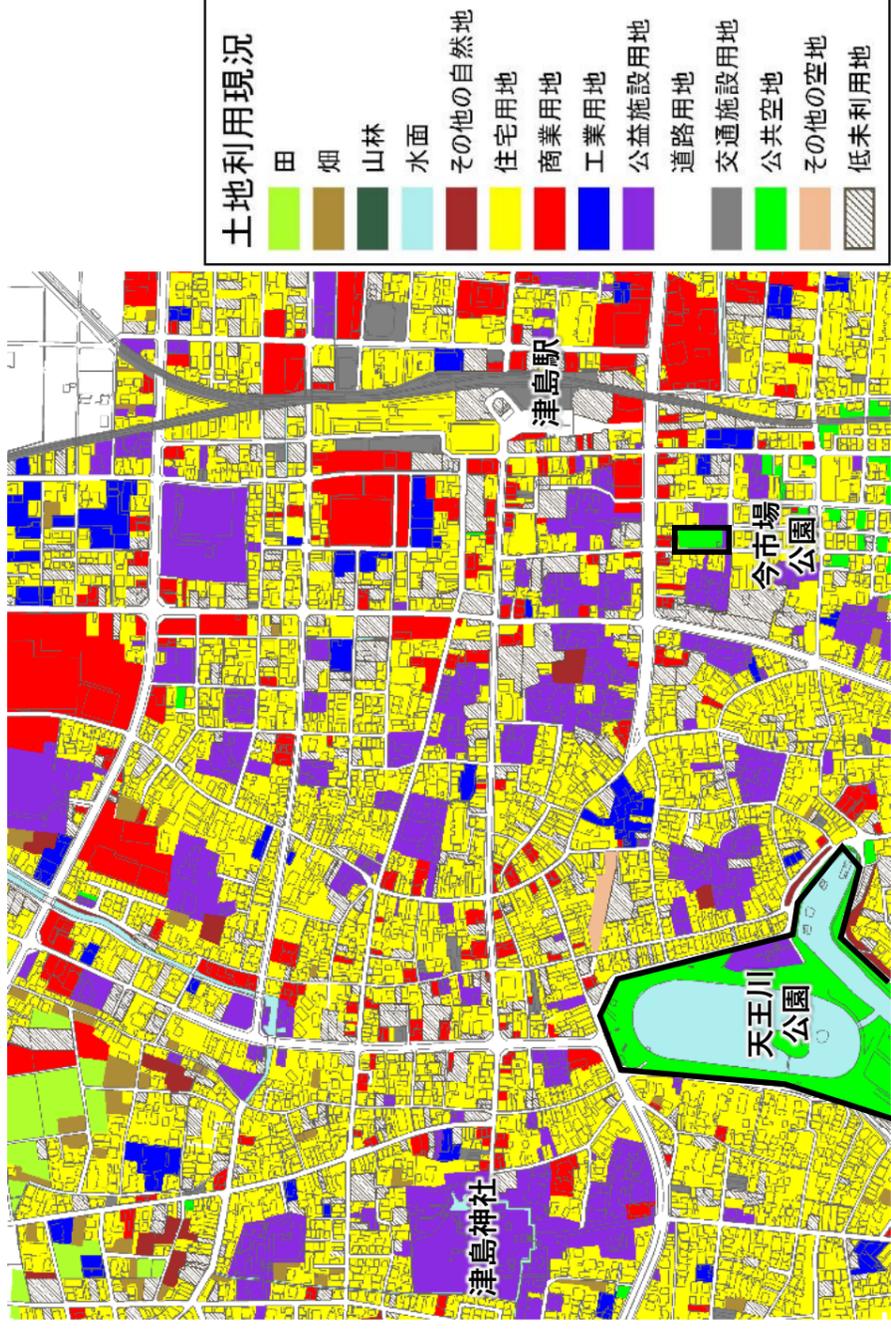
日常生活の利便性は高い状況です

(3) 暮らしの場としての現状

② 周辺の土地利用

- ✓ 天王通り周辺は、主に商業系の用途地域に指定されていますが、土地利用は、主に住宅用地となっています。
- ✓ 公共空地である公園は、天王通り沿線の対象エリア内では整備されていない状況です。
- ✓ 空き家や空き家になる可能性が高い建物が多い状況です。
- ✓ 広幅員の道路が整備されておらず、防災性が十分確保されていない状況です。

■ 土地利用

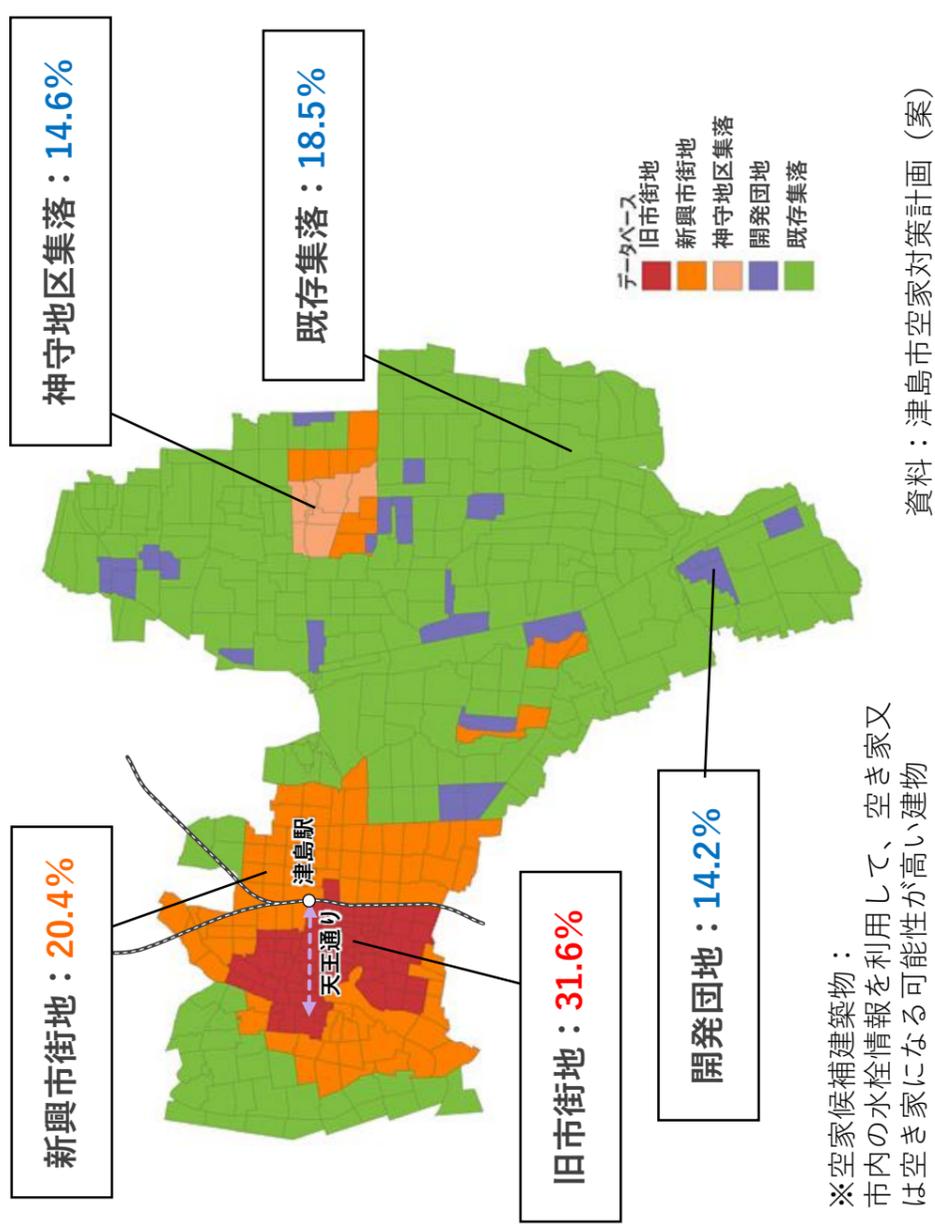


資料：平成30年都市計画基礎調査

公園等の快適な交流空間が不足しています

地域の防災性が十分確保されていません

■ 市内の空家候補建築物の分布状況



※空家候補建築物：
市内の水栓情報を利用して、空き家又は空き家になる可能性が高い建物

資料：津島市空家対策計画（案）

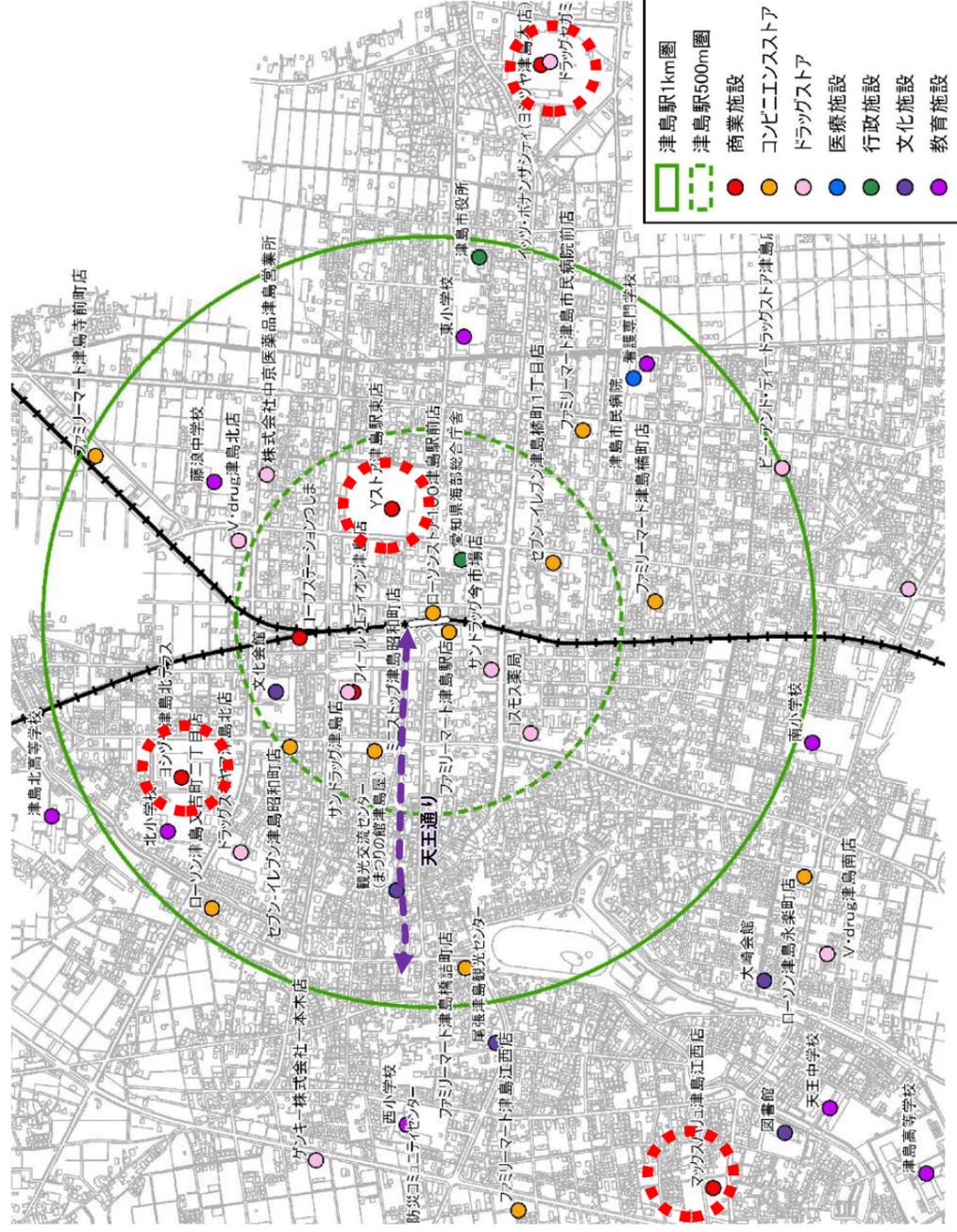
空き家や空き家になる可能性が高い建物が
多い状況です

(4) 活動の場（目的地）としての現状

①日常生活での利用施設

- ✓ 津島駅の東側や対象エリア周辺の幹線道路沿いに食料品・日用品等を扱う大規模な商業店舗が立地しており、天王通り沿道は、地元以外の市民の日常生活では利用機会が少ない状況です。

■生活利便施設の立地状況



市民の日常の買い物での
来訪が少ないと考えられます

②空き家・空き店舗等を活用した店舗の出店

- ✓ 空き店舗を活用した店舗が出店しており、ここにしかない商品やサービスが提供されています。

■天王通り沿道の空き店舗等の活用事例



■ゲストハウスとしての活用事例



ここにしかない特徴的な店舗等があります

③多様な地域資源の立地

- ✓ 対象エリア周辺には、地域や市民によって育まれてきた、県内でも有数の集客力のある歴史・文化的資源が残っています。
- ✓ これらを活用した催し物等も行われています。

津島神社



尾張津島藤まつり



尾張津島天王祭



尾張津島秋まつり



天王川公園



東海三県で寺密度NO.1



津島市観光交流センター



重要文化財 堀田家住宅



本町筋



茶の湯文化



歴史・文化資源を活かした様々な取り組み

- ・津島まち歩きツアー
- ・津島でら・まち御縁結び
- ・つしまおもてなしコンシェルジュ・津島おもてなしステーション
- ・津島でら寺巡り
- ・お月見灯路
- ・津島こい♡こいマルシェ
- ・謎解きゲーム
- ・津島を楽しむ 体験プログラム
- ・津島おもてなしステーション
- ・津島霊場巡り
- ・ルミエールフェスティバル

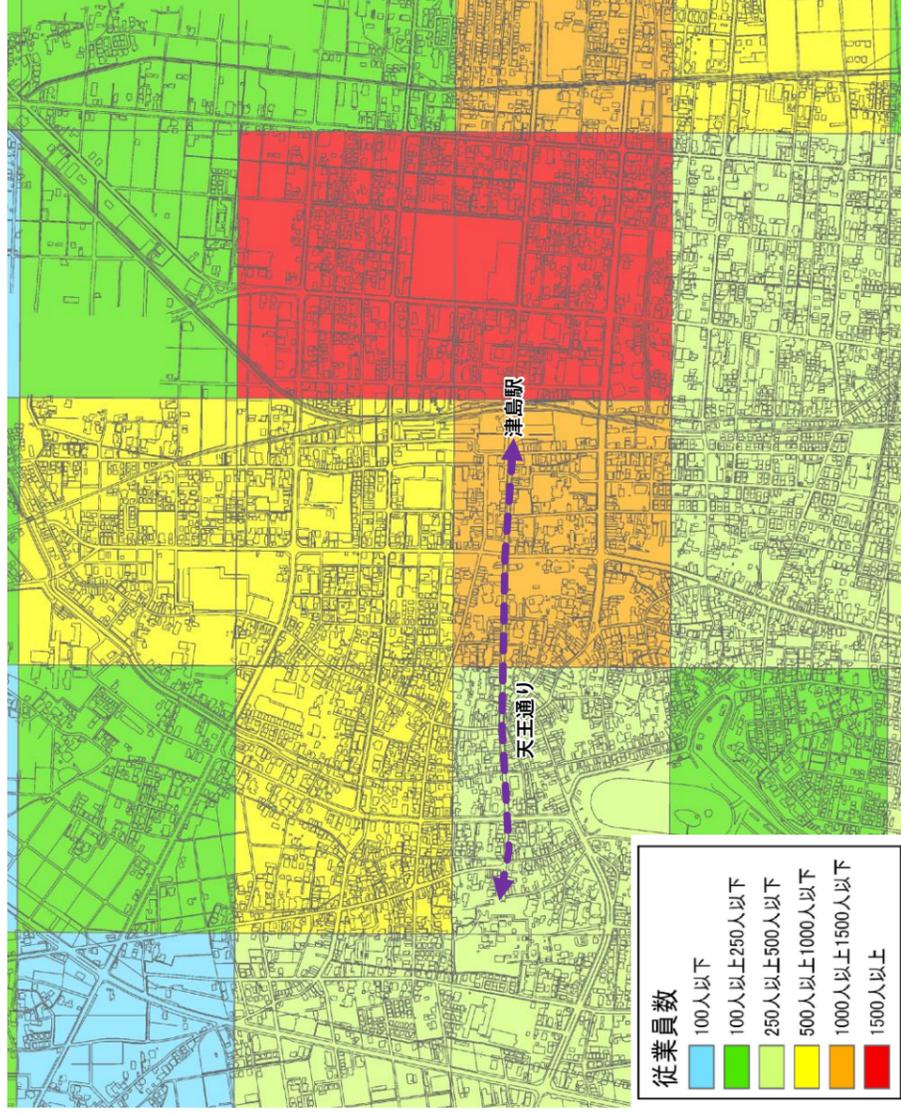
市民に育まれてきた貴重な歴史・文化資源や祭事・催し物があります

(5) 働く場としての現状

① 従業者数

- ✓ 津島駅東側において、商業店舗や公的施設等が立地しており従業者数が特に多い状況です。
- ✓ 津島西側についても、駅に近いエリアで多くの人が就業しています。

■ 従業者数の分布状況（500メッシュ）



資料：平成26年経済センサス

津島駅に近いエリアで
多くの人が就業しています

③ 事業所の立地動向

- ✓ 天王通5交差点以东の津島駅直近の街区には、事業所の新規立地が進んでいない状況です。
- ✓ 同交差点以西では、駐車場用地だった場所に事務所が立地する事例があります。

■ 低未利用地（駐車場）を活用した事務所の立地



③ 事業所の大きさ

- ✓ 天王通り沿線の事業所の規模は、市内の市街地内と比較して小さい状況です。

■ 業務施設の建築面積の比較

対象エリア	建築面積
天王通り沿道平均	106㎡/棟
市内市街化区域平均	142㎡/棟

資料：平成29年度都市計画基礎調査

事業所の新規立地が少ない状況です

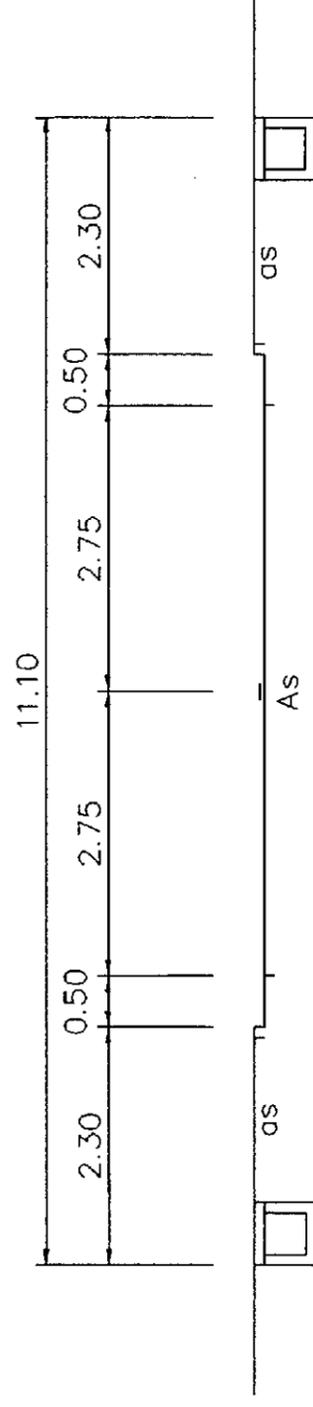
事業所の面積は、他のエリアと比較して
手狭な状況です

(6) 歩行空間の現状

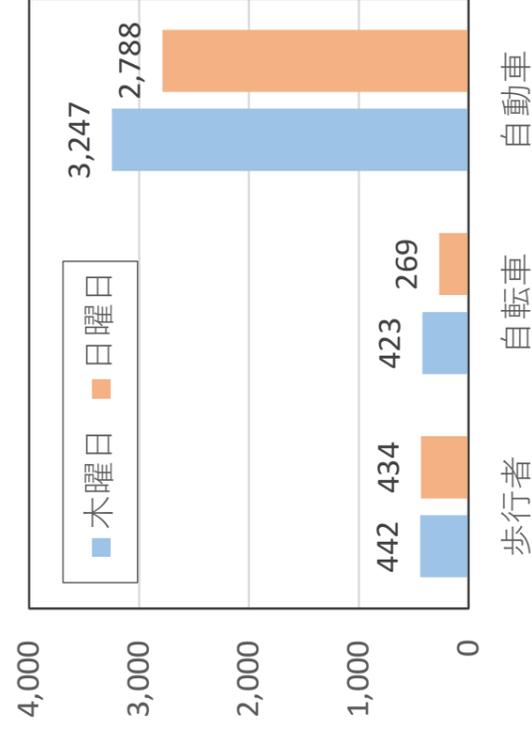
①天王通り

- ✓ 天王通りの歩道幅員が十分確保されていません。
- ✓ 徒歩や自転車で移動する人はまばらな状況で、エリアに係りのない自動車の通過交通が多く、自動車の交通処理が中心となった道路として機能しています。

■ 天王通りの断面構成(歩道有区間)



■ 天王通 5 交差点の東西方向の12h 交通量 (R3.2)



②津島駅前広場

- ✓ 津島駅前広場は、自転車や徒歩での利用が多い中で、安全・快適に利用できる施設配置となっていません。
- ✓ 環境空間が十分に確保されていない状況です。

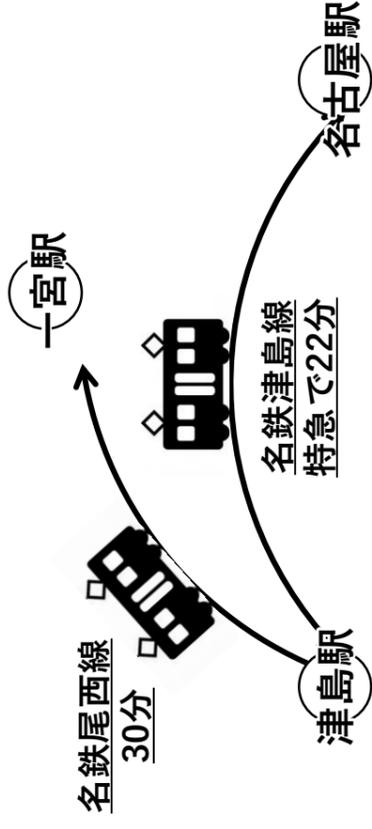


安全・快適な歩行空間が十分確保されていません

(7) 周辺地域からのアクセス環境

① 広域的な公共交通の利便性

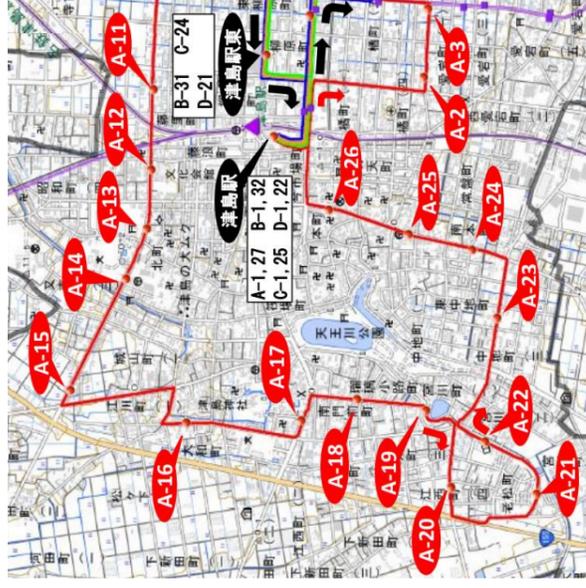
- ✓ 名鉄津島駅は、名鉄名古屋駅からの特急駅が停車するなど、都市間の公共交通ネットワークは確保されています。



② 津島市巡回バス「ふれあいバス」

■津島市巡回バス「ふれあいバス」のルート

- ✓ 天王通り周辺では、津島駅や津島神社南にバス停が設置されており、1日当たり5便運行されています。
- ✓ 天王通りや本町筋には、公共交通が整備されていない状況です。



鉄道での都市間移動の利便性は高い状況です

天王通りや本町筋の公共交通の利便性は確保されていません

③ 駐車場の整備状況

- ✓ 津島神社や駅付近において、一般の人が利用可能な駐車場が整備されています。一方で、天王通りと本町筋が交差するエリア付近には、駐車場が整備されていない状況です。

■対象エリア周辺の駐車場の分布状況



No	名称	料金体系概要	駐車可能台数
①	津島神社 東駐車場	無料	40台
②	津島神社 南駐車場	無料	60台
①	スマートパーキング 津島駅前	時間貸し・日貸し	1台
②	ポナンザパーキング 駅前立体駐車場	時間貸し・日貸し	255台
③	名鉄協商津島駅前第1	時間貸し・日貸し	51台
④	リパーク津島駅前	時間貸し・日貸し	8台
⑤	タイムズ津島	時間貸し・日貸し	9台
⑥	コインパーキング 津島駅前I	時間貸し・日貸し	17台
⑦	ポナンザパーキング 良王町駐車場	時間貸し・日貸し	50台
⑧	スペースECO 津島駅前第2	日貸し	14台
⑨	ポナンザパーキング 天王通り駐車場	時間貸し・月極	145台

本町筋付近に来訪者向けの駐車場が確保されていません

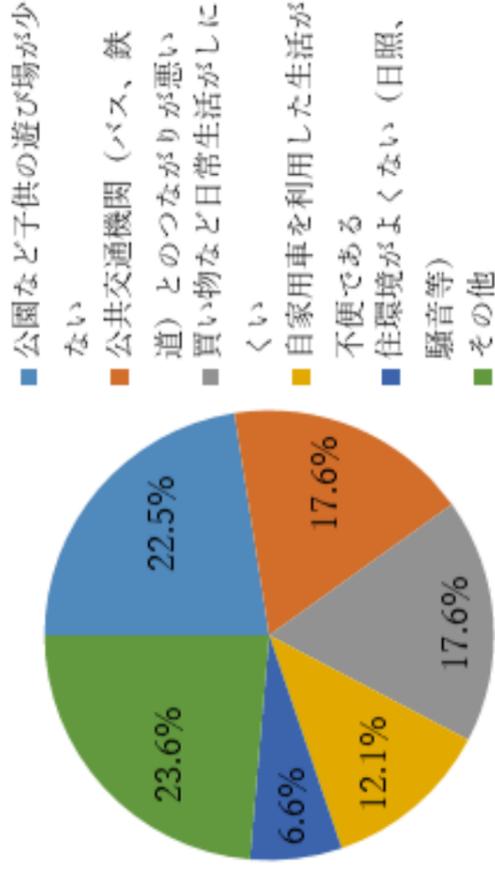
(8) 市民ニーズ

①天王通り周辺のまちづくりアンケート調査

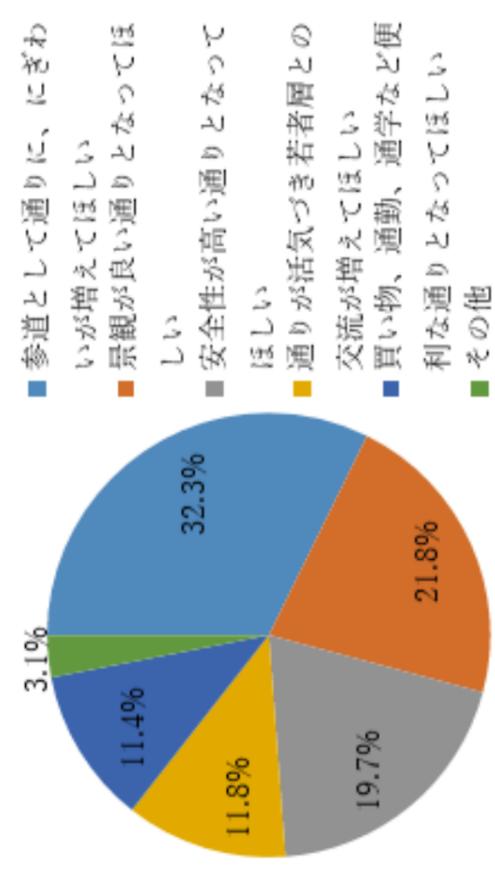
【平成30年10月 沿道の住民等（配布：361票、回収129票）】

- ✓ 現在の不満として、「遊び場が少ない」「公共交通機関とのつながり」「買い物が不便」が多い結論となりました。
- ✓ 今後は、「にぎわい」「良い景観」「高い安全性」の順で高く期待されています。

■天王通りの不満



■期待する天王通りの将来の姿

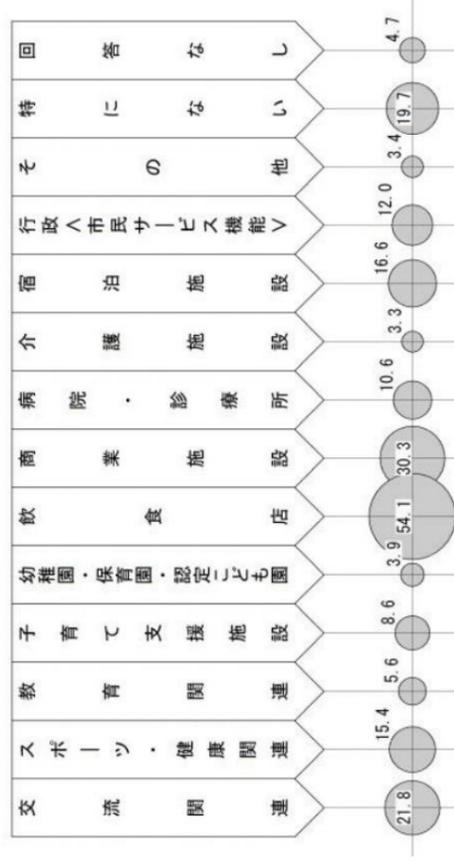


②津島市市民意識調査

【令和元年5月 18歳以上の市民（配布：2,000票、有効回答945票）】

- ✓ 「飲食店」が54.1%と回答比率が最も高く、「商業施設」が30.3%、交流関連が21.8%と続いています。

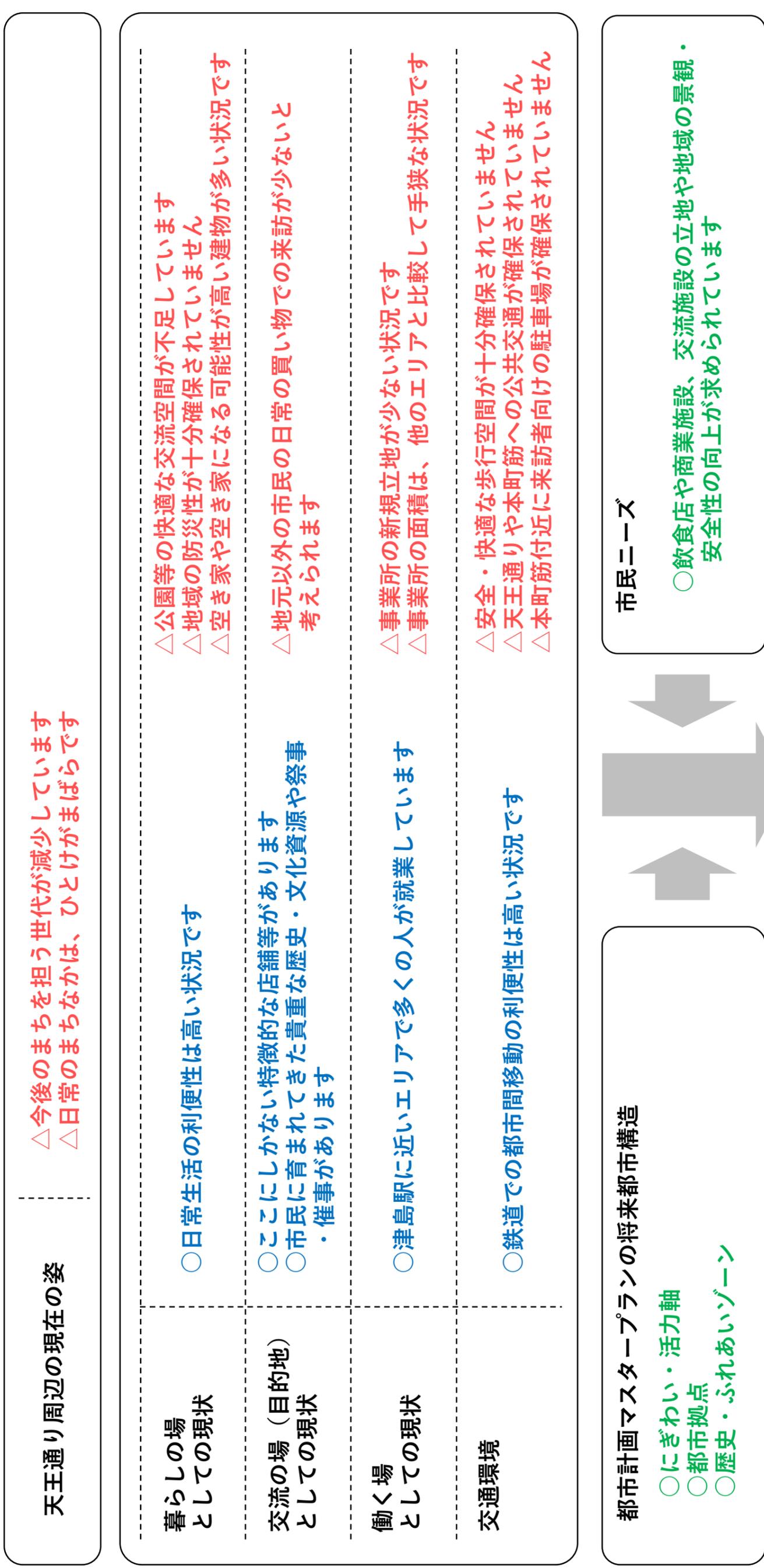
■名鉄津島駅周辺に立地して欲しい機能



飲食店や商業施設、交流施設の立地や地域の景観・安全性の向上が求められています

(9) 対象エリアの課題

✓ 上位計画の位置づけや市民ニーズに対応するため、対象エリアの現状に対し、以下の課題があります。



課題

ハード整備を含めた居住環境・就業環境・交通環境の改善と
日常的に多くの人が集まる地域資源の活用や新たな目的地の創出により、
住む人やまちを歩きかう人を増やしていくことが必要

4. 地域の目指す姿

(1) 将来像

- ✓ まちなかに係る様々な主体が同じ方向性で効果的な取組みを推進するため、将来像を設定します。
- ✓ 高い生活利便性や多様な地域資源などの強みを活かしながら、以下の風景のあるまちなかを目指します。

**住む人に加え、働く人、遊ぶ人など
時間を過ごす人が絶えることなく持続的に存在するまち**

(2) キャッチフレーズ

- ✓ まちなかに係る様々な主体が連携してまちづくりを進める中で、より多くの人に浸透するよう、本構想のキャッチフレーズを以下の通り設定します。

つしまちぐらし

津島の歴史ある街に寄りそい、休日も楽しめる、歩いて暮らせる街へ

(3) 将来のまちなかの風景

- ✓ 若い世代や親子連れが、楽しく買い物しながらまち歩きができる。



- ✓ 通り沿いにおしゃれな店舗の進み、気になる店へふらっと立ち寄り買い物やランチ。



- ✓ 来訪者も住民も歴史を体感しながら、ゆっくり散策。



- ✓ 子どもを遊ばせる空間があり、子供や親などの笑い声が聞こえてくる。



- ✓ 色々な世代がまちなかでオープンに語っている。



- ✓ 広くて快適な歩行空間を歩いて通勤。



- ✓ 買い物ついでに友達同士で外でおしゃべり。この後はカフェへ。



- ✓ ビジネスパーソンが増え、日中も活気がある。



- ✓ 身近な場所で定期的にイベントが行われ、楽しく暮らせる。



(4) 活かすべき地域の特色 (ゾーニング)

- ✓ 津島駅周辺はその生い立ちの違いから、それぞれ特徴の違う3つのエリアで構成されていることを踏まえながら、エリアをゾーニングし、それぞれ特色のあるまちづくりを推進します。

神社公園エリア

津島神社とその参道門前町、天王川公園からなるエリア

西暦540年創建、分霊社が全国に約3,000社に及ぶ津島神社が存在する。また、旧河川敷である天王川公園は水辺と緑豊かな空間が広がる。かつては伊勢と尾張を結ぶ湊町として栄え、尾張の西玄関の機能を果たしていた。

津島神社及び天王川公園では、室町時代から続く天王祭りの他、藤祭りや秋祭りで多くの人で賑わう。

歴まちエリア

湊町の経済を支えた「津島五ヶ村」が連なる本町筋と寺町からなるエリア

天王通りが背骨に位置し、津島神社門前町、湊町（津島五ヶ村）などの要素が重層し、さらに社寺院が多く点在する歴史と文化（祭り、茶の湯、町並み等）が今に継承されているまち。

津島五ヶ村がかつて連なった本町筋を中心に歴史的な風致を示すまちなみ景観が残る。

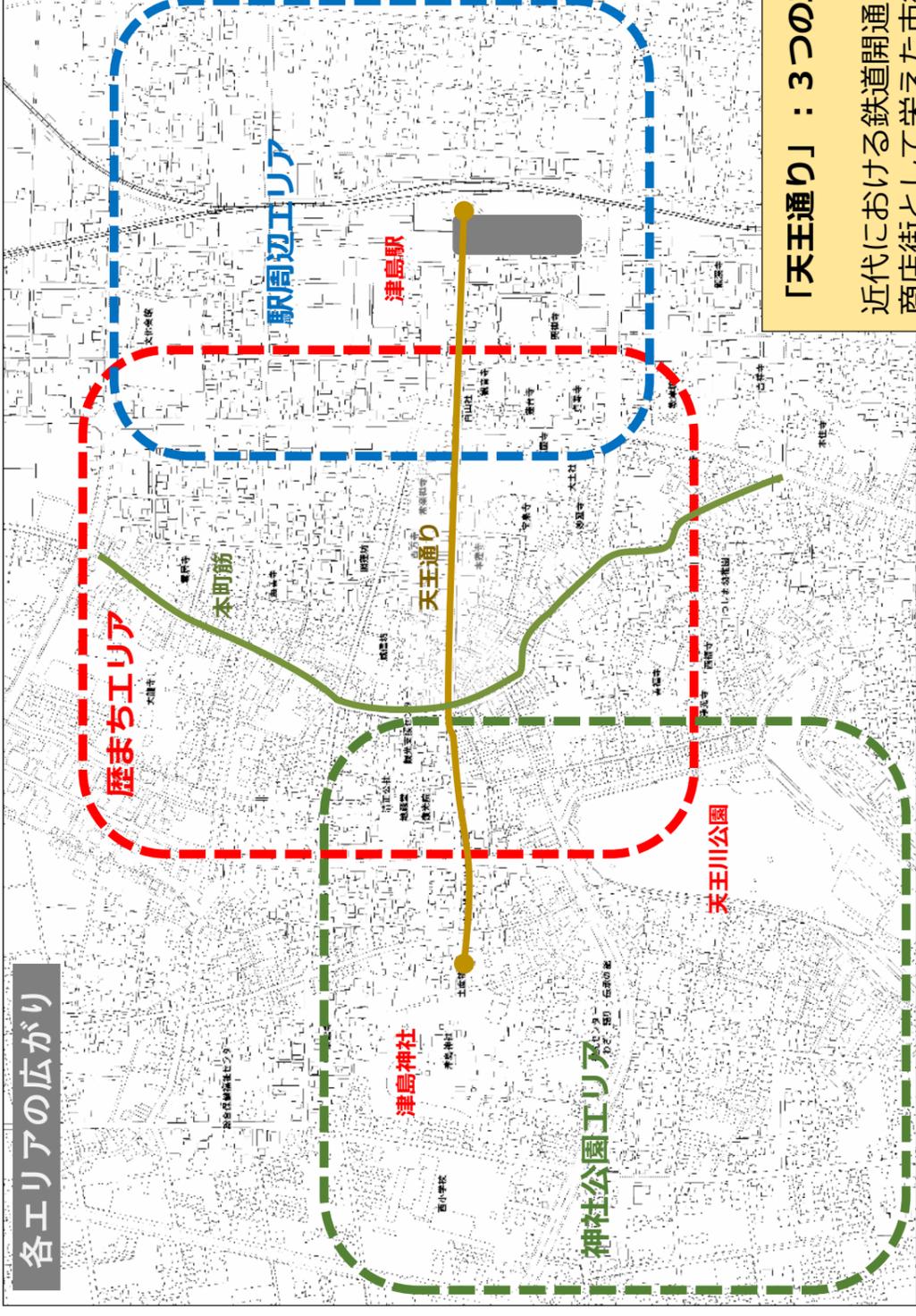
駅周辺エリア

近代以降、津島駅と天王通りを中心に商店街が栄えたエリア

津島駅の開設に合わせ整備された天王通りを中心に商店街や住宅地が形成されてきた。

戦後は繊維工場等の跡地に商業施設等が立地し、車社会に対応した土地利用が進む。

津島駅は公共交通の結節点



「天王通り」：3つのエリアを結ぶ東西軸

近代における鉄道開通と繊維産業により津島の中心となる商店街として栄えた市街地軸

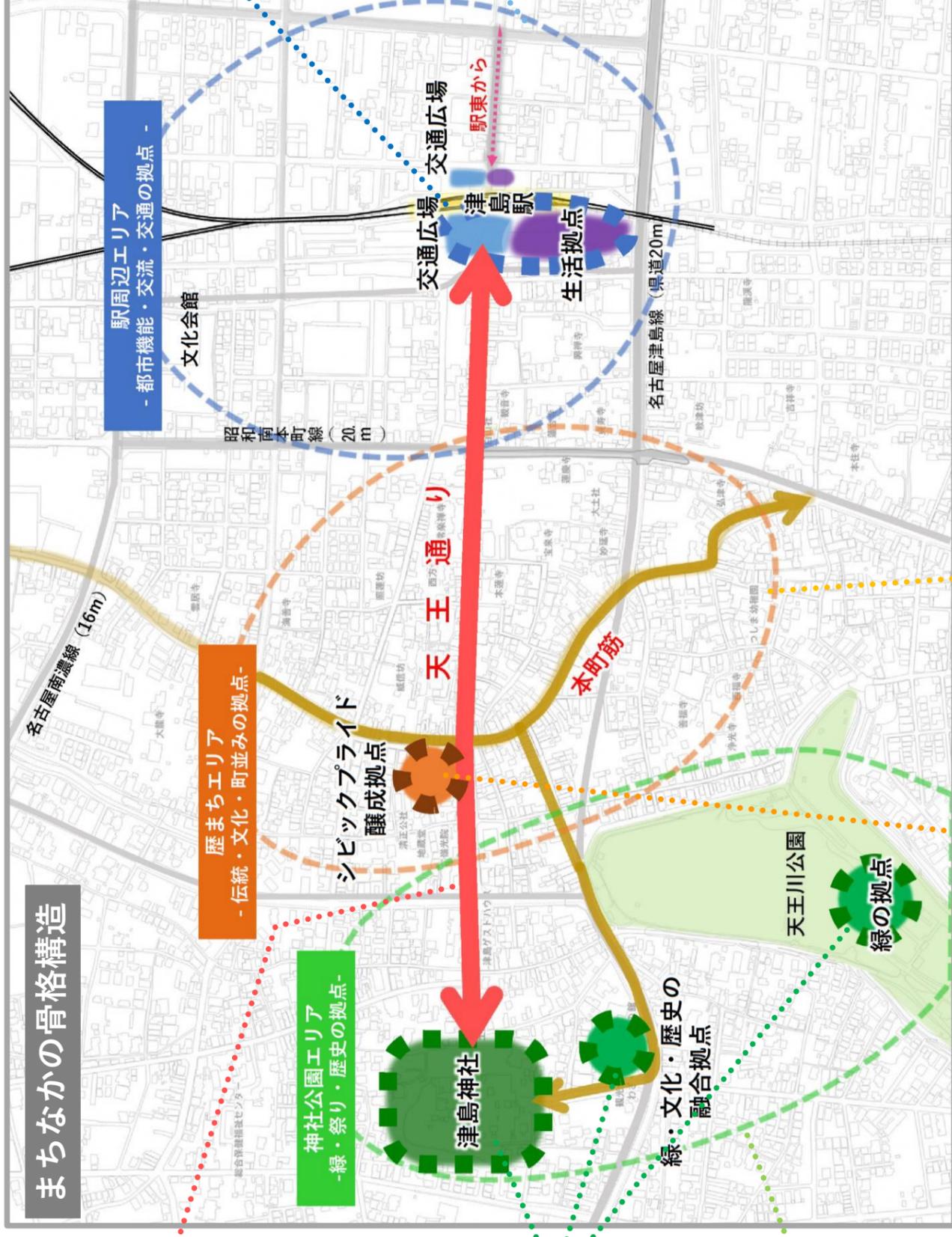
(5) まちなかの骨格構造（拠点とネットワーク）

- ✓ 各ゾーンの特徴を踏まえながら、メリハリのある取組みを推進するため、各ゾーンで核を配置しそれらをネットワークさせさせる骨格構造を形成します。
- ✓ 各拠点やネットワークの形成により、津島市のまちなかに以下の生活や活動を創出します。

【天王通：ネットワーク】
歩行者メインの道路空間では、若い世代から子育て世代、高齢者、働く人など、多くの人が談笑しながら行き交い、沿道の店舗も賑わっている風景が日常にある。質の高い景色があり、まちなかで暮らすことがステータスとなっている。

【神社公園エリアの拠点】
現状で集客力の高い津島神社・天王川公園の魅力が高まり、さらに多くの人が出かける。本町筋・天王通りや路地を歩いて、本町筋へ足を伸ばす人も増え、滞在時間が増えている。まちなかを常に人が行き来し、沿道店舗での消費も増えていく。

【神社公園エリア】
津島市の歴史・文化を感じられるゆとりある居住環境の中で、生活ができる。少し離れた商業施設で買い物した人もまちなかに立ち寄り、余暇時間を過ごしている。



【駅周辺エリアの拠点】
修景されたゆとりのある都市空間や駅前広場があり、毎日快適に通勤・通学できる。

【駅周辺エリア】
(暮らしの場)
徒歩圏に駅、スーパー、保育・教育、福祉、生活サービス施設がある利便性と、快適な都市空間が整ったまちで生活でき、若い世代の転入が進み、居住地としての価値が高まっている。

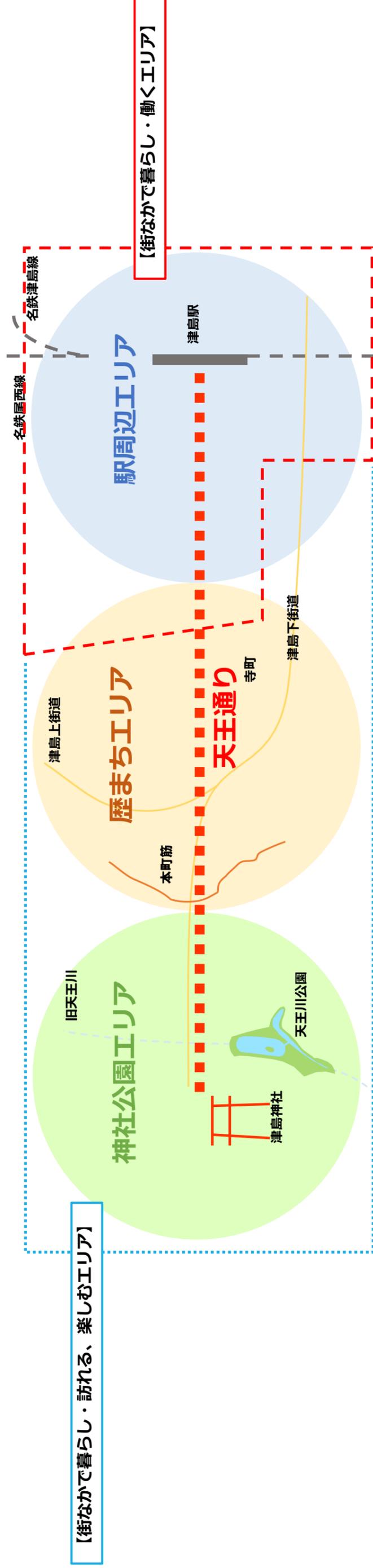
(働く場)
名古屋都心に気軽に出かけられる便利さがあり、歴史・文化・自然に触れ、リフレッシュできる場が近くにあるまちなかで、オフィス立地が進み、平日の昼間にまちなかを行き来する働く人が増えている。

【歴まちエリアの拠点】
天王通りと本町筋が交わる箇所に高校生等が集まる場所があり、それぞれの通りに若い世代が集まる日常・風景がある。それにつられて、さらに人が集まり、時間を過ごす中で、地域の歴史・文化や、まちが良くなっていく過程に触れ、愛着が高まり、多くの人が何度かまちなかを訪れる。

【歴まちエリア】
津島市の歴史・文化を感じられるゆとりある居住環境の中で、生活ができる。天王通りや本町筋の古民家カフェ、レストランなどで楽しみながらゆとりと過ごすことができる。少し離れた商業施設で買い物した人もまちなかに立ち寄り、余暇時間を過ごしている。

(6) 地域づくりの方針

✓ まちなかの将来像を踏まえ、以下の方針によりまちづくりを推進します



「つまちぐらし」のエリア範囲

【神社公園・歴まちエリア】

●市民生活

都市の生活を送る「人」を対象に、当市のアイデンティティを核として【街なかで暮らし・訪れる、楽しむエリア】に向け、日常的な心の拠り所、憩いやアクティビティ、地域住民の交流等の「場」を創る。

人：住む・暮らす人、訪れる人、遊ぶ人 場：暮らしの場、話題の場、交流の場等

●観光交流

観光機能（飲食、土産、駐車場、案内、展示・体験施設等）の充実を図り、来訪者の滞在時間の延長を図る。

●観光交流

空き店舗等をゲストハウスや店舗等に活用し、まちの観光機能を充実させる。
また、社寺院を巡る「小路」の散策路ネットワークの充実を図り、神社公園エリアとの回遊性を高める。

【駅周辺エリア】

●市民生活

「駅ちか・駅そば」を活かし「人」を対象に、【街なかで暮らし・働くエリア】に向け、高度利用を含め都市機能の集積を図り津島駅前を都市の玄関にふさわしい「場」を創る。

人：住む・暮らす人、働く人、訪れる人 場：暮らしの場、職場、活動の場

●観光交流

津島市及び海部地域の観光の玄関口として、観光交通・情報案内・飲食等商業・宿泊等の機能集積を促す。

【天王通り】

●市民生活

歩行者優先とし安心・安全な歩行空間を確保することで歩いて暮らせるまちづくりを促進する。また、居心地の良い街路空間の形成により日常の買い物、交流等の市民活動を促進

●観光交流

3つのエリアをそれぞれの特性を活かしながらつなぐとともに来訪者にとって居心地の良い歩行空間を形成する。沿道に開かれた店舗や交流拠点を連続させることで来訪者が歩いて楽しい沿道とする。

5. 重点的な取り組み

(1) 戦略的な取り組み (実施ステップ)

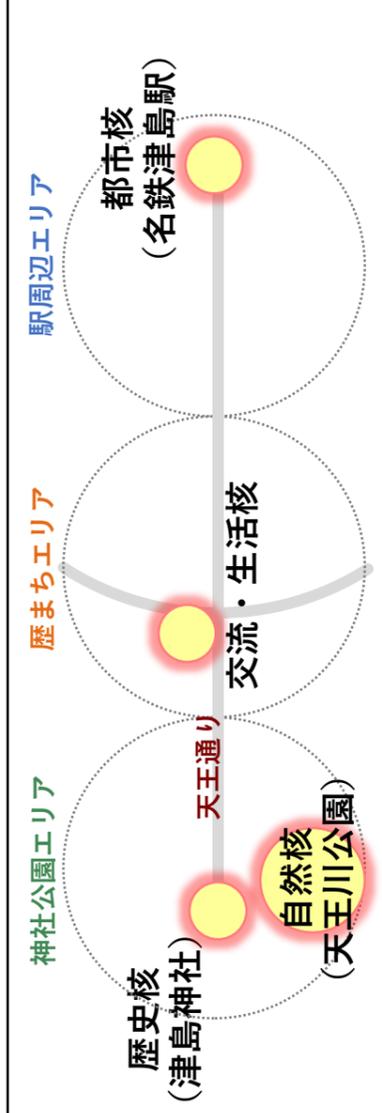
- ✓ 対象エリアで育まれてきた文化の継承・活用を行いながら、各エリアの核を形成して「人に使われる公共空間」を創り、その取り組みを広げるなかで、まちづくり骨格を形成していきます。
- ✓ 継続的なまちづくりを行うため、市が投資主体となり、今すぐ取り組めるものをはじめ、地域住民や関係機関と将来ビジョンを共有しながら、段階的なまちづくりを発展させます。

■実施ステップの概要

ステップ1

点

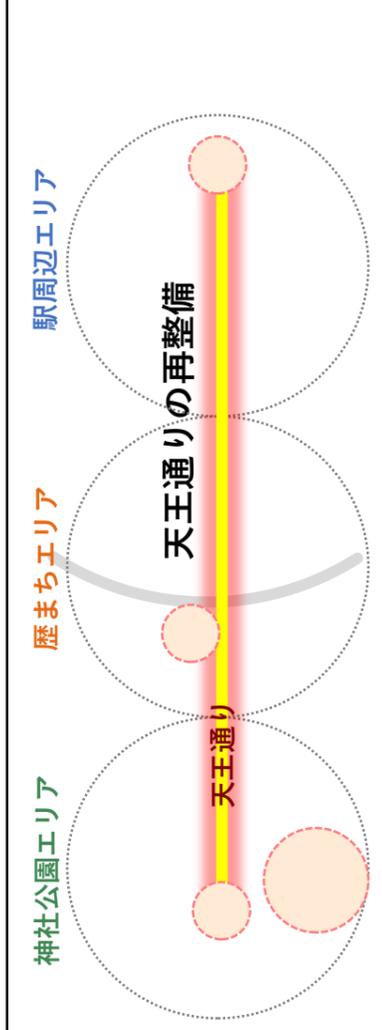
既存のものを活用しながら各エリアの「核となる魅力」を強化します。



ステップ2

線

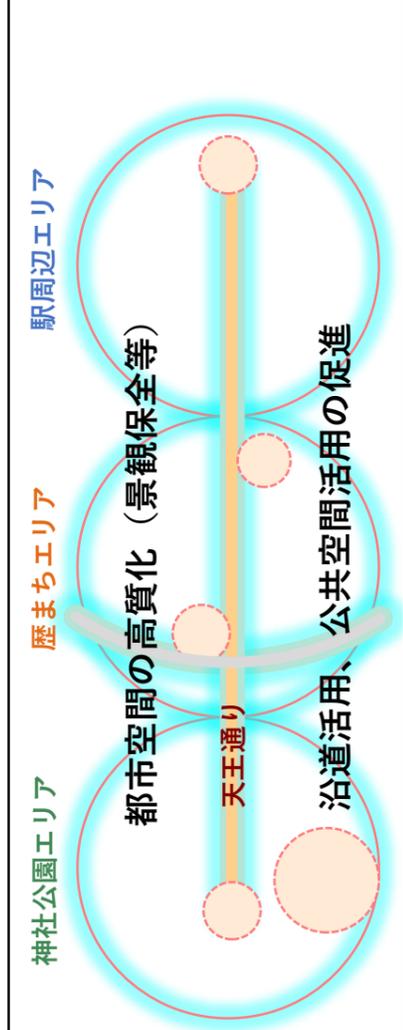
「核となる魅力」をつなぐ天王通りに、まちあるき環境とゆとりある都市空間を創出します。



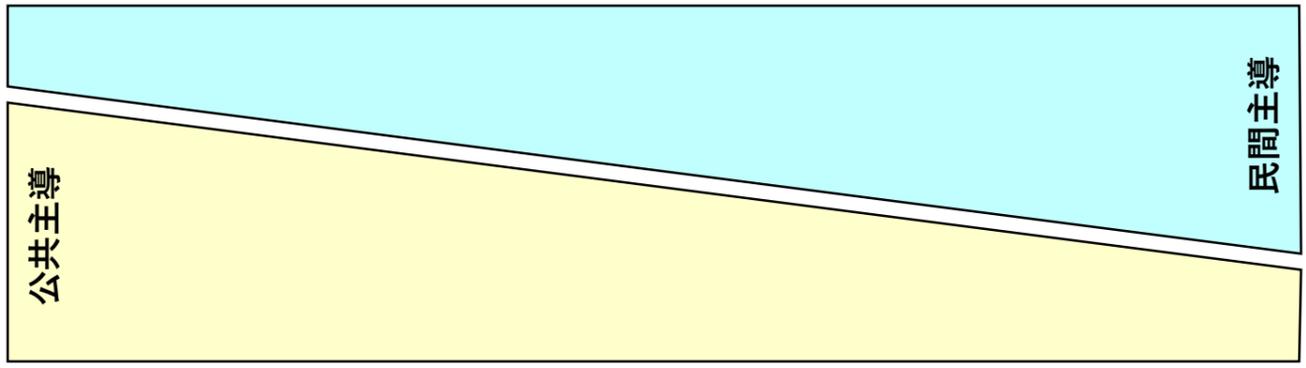
ステップ3

面

関係主体の総動員で、核の魅力をエリア全体に波及させ魅力ある沿道や風景を創出します。



役割分担の概要

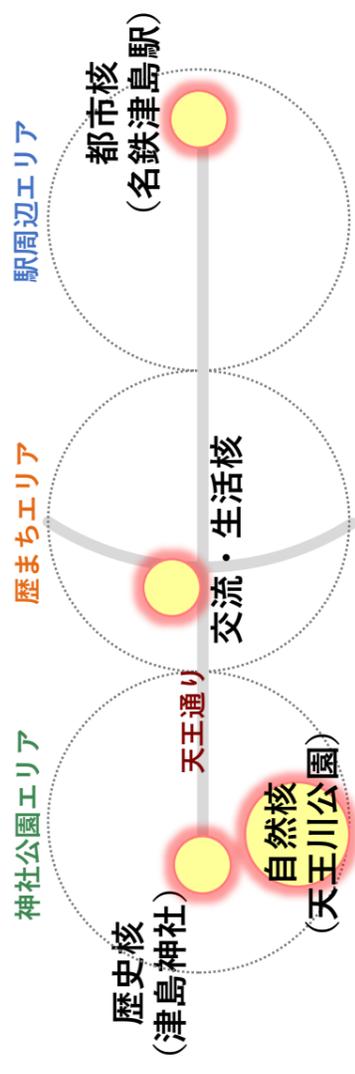


(2) 各ステップの狙い

- ✓ ステップ1では、人が集まる風景を創出し、まちなかが賑わっていく可能性を見せることで、多くの人のまちなかに対する関心を高め、店舗の出店等の民間投資を呼び込みかけを創ります。

ステップ1：点

既存のものを活用しながら
各エリアの「核となる魅力」を強化します。



まちなかに来て、滞在するきっかけをつくる
住民やまちなかで働く人が、身近に楽しめる場所をつくる

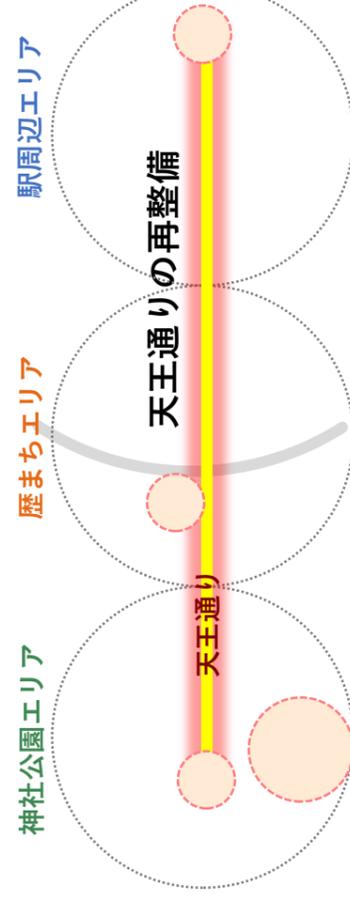
まちなかの良さ・可能性を再発見してもらう
まちなかに日常的に人が集まる風景を創出する

まちなかに対する関心を高める
店舗出店等の民間投資を呼び込みかけとなる

- ✓ ステップ2では、拠点施設で終わるのではなく、まちなか全体を連続的に魅力を高めることにより、更なる民間投資を呼び込むとともに、よりよいまちづくりへの機運が高まることが狙います。

ステップ2：線

「核となる魅力」をつなぐ天王通りに、
まちあるき環境とゆとりある都市空間を創出します。



拠点内だけでなく、まちなかを歩いて気持ちよく過ごせる空間をつくる

まちなか全体を暮らしの場・交流の場・働く場として魅力を高める

より多くの人がまちなかを行き来する、
津島市のシンボルとして明るい風景を創出する

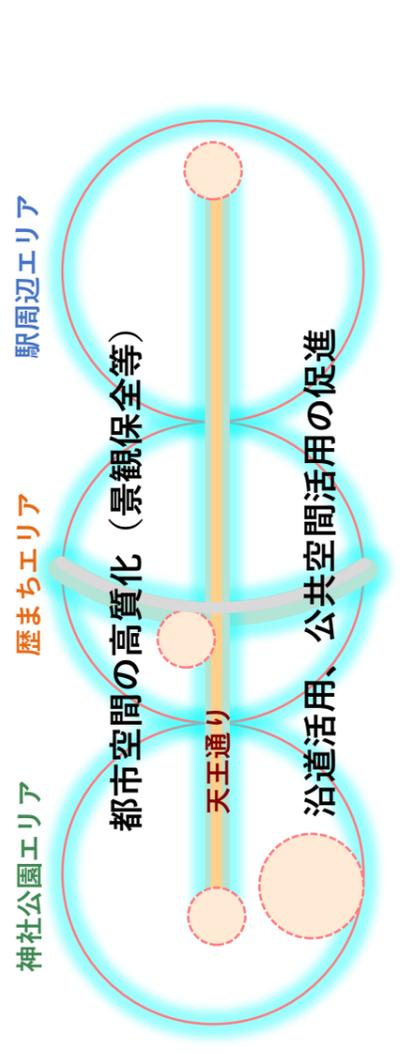
店舗や事業所、住宅等の更なる民間投資を呼び込む

沿道の住民や事業者等によるまちづくりの機運の醸成

- ✓ ステップ3では、道路と沿道の建物が一体となった景観形成や、年間を通じて様々な人がいる風景の創出により、まちへの関心・愛着が育まれ、主体間・世代間の交流が生まれることで、官民の連携による継続的なマネジメントが行われ、まちの価値が将来にわたり維持・向上されることが、様々な交流・活動を通じて新たな価値が創出され続けることを狙います。

ステップ3：面

関係主体の総動員で、核の魅力をエリア全体に波及させ魅力ある沿道や風景を創出します。



道路と沿道の建物が一体となった、魅力的なまちなみが形成される
多様なコンテンツにより、年間を通じて様々な人が行き来する風景がある



まちへの関心・愛着が育まれる
様々な活動を通じて主体間・世代間の交流が育まれる



官民によるマネジメントが継続的に行われ、まちなかの価値が将来にわたり維持・向上される
様々な交流・活動を通じて新たな価値が創出され続ける

(3) 各ステップの重点施策

ステップ1：点 既存ものを活用しながら各エリアの「核となる魅力」を強化します。

施策 1-1

天王川公園へのPark-PFI活用等による
多目的利用の促進
公園全体の魅力向上及びまちなかの回遊性の向上

施策 1-2

堀田家住宅と一体となった
観光ターミナル機能整備
西の玄関口となる拠点整備

施策 1-3

観光交流センターの機能拡充
(シビックプライド醸成機能整備)
地元、市民の日常の集いの場としての機能拡充

施策 1-4

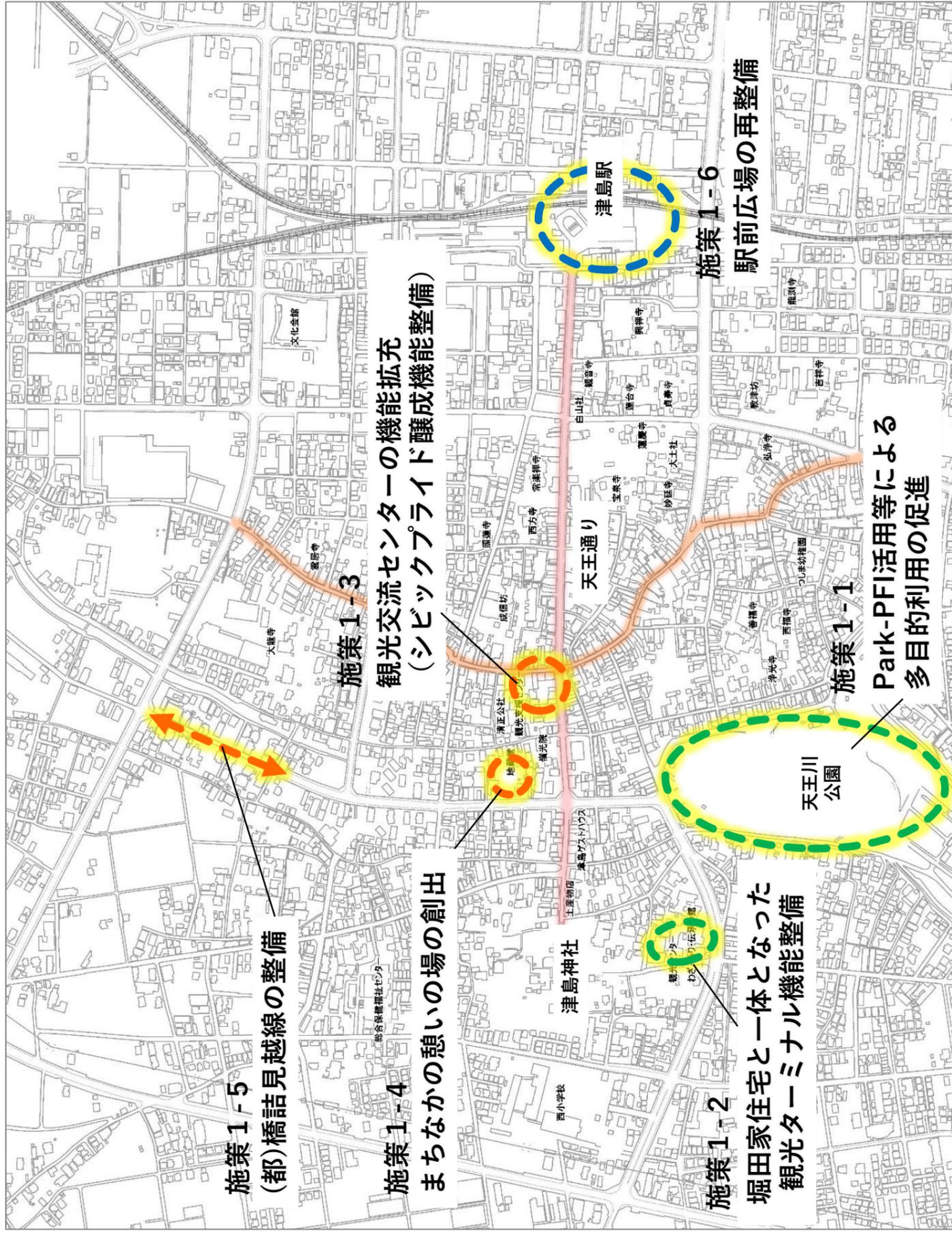
まちなかの憩いの場の創出
地元、市民の日常の集いの場の整備・機能拡充

施策 1-5

(都)橋詰見越線の整備
各拠点施設への安全なアクセス経路の確保

施策 1-6

駅前広場の再整備
交通空間の利便性向上と環境空間の高質化



ステップ2：線 「核となる魅力」をつなぐ天王通りに、まちあるき環境とゆとりある都市空間を創出します。

- 施策 2-1**

天王通りの再整備
 道路空間の再配分による
 人中心の魅力的な空間の創出
- 施策 2-2**

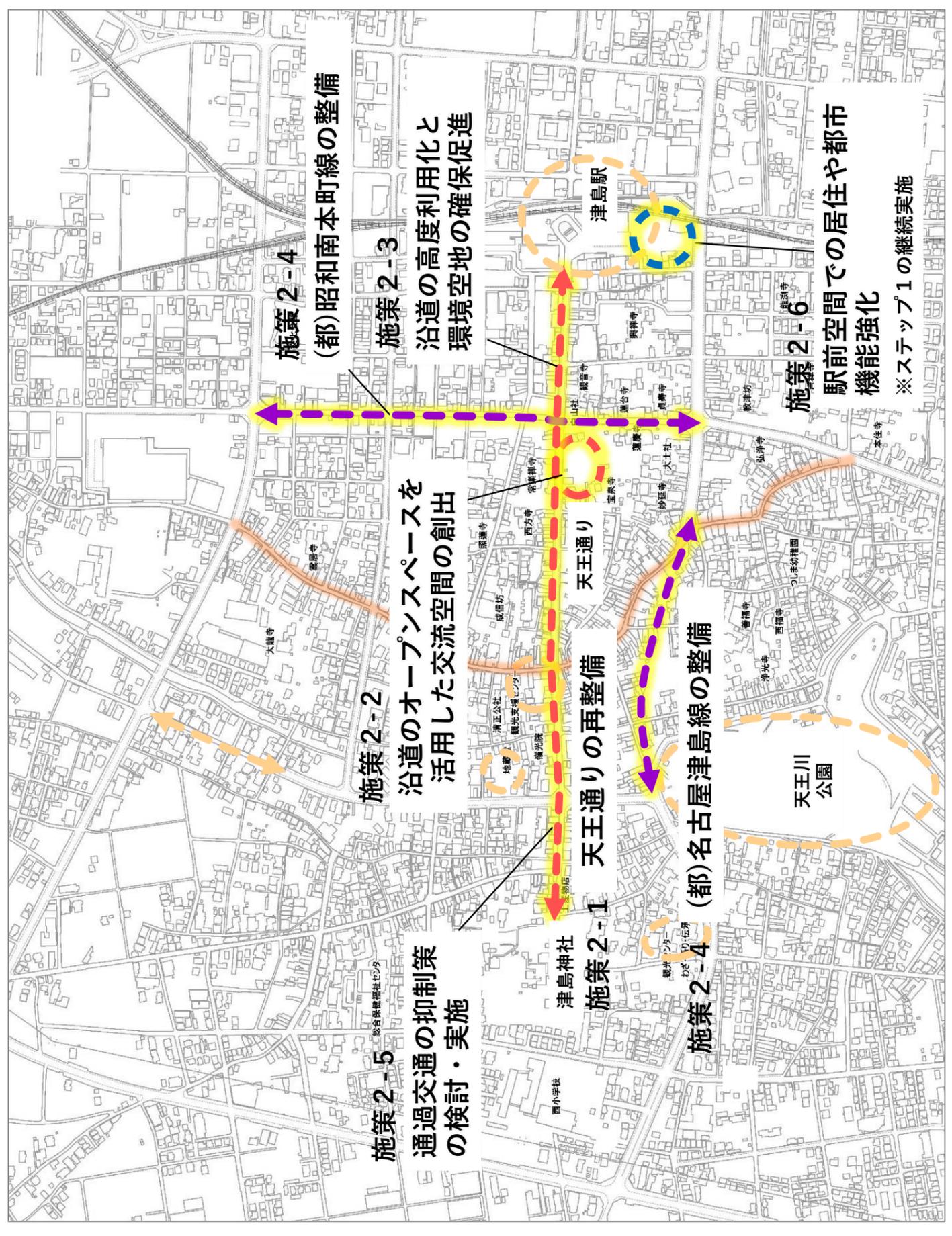
**沿道のオープンスペースを活用した
 交流空間の創出**
 周辺の居住環境の向上、回遊性の向上
- 施策 2-3**

**沿道の高度利用と環境空地の確保促進
 (駅周辺エリア)**
 にぎわい創出に向けた昼夜間人口の増加と
 ゆとりある街歩き空間の確保
- 施策 2-4**

**まちなか周辺の幹線道路網の整備
 ((都)名古屋津島線、(都)昭和南本町線)**
 天王通りを経由しなくても円滑に自動車交通を
 処理する幹線道路網の形成
- 施策 2-5**

通過交通の抑制策の検討・実施
 天王通りへの通過交通の抑制
- 施策 2-6**

駅前空間での居住や都市機能強化
 駅前広場と一体となった利便性の高い場所での
 居住地及び都市機能の確保



ステップ3：面 関係主体の総動員で、核の魅力をエリア全体に波及させ魅力ある沿道や風景を創出します。

施策 3-1

地域の特性に応じた沿道空間の高質化

市民や来訪者が
快適に愛着を持って過ごす空間形成

施策 3-2

空き家・空き店舗等の活用促進

まちなかの賑わいと地域経済の活性化

施策 3-3

**防災性を高める
オープンスペースの確保**

安全・安心・快適なまちづくりを推進

施策 3-4

**地域資源や公共空地等を活用した
集客イベントの継続と拡大**

来訪機会・まちづくりへの参画機会の創出

施策 3-5

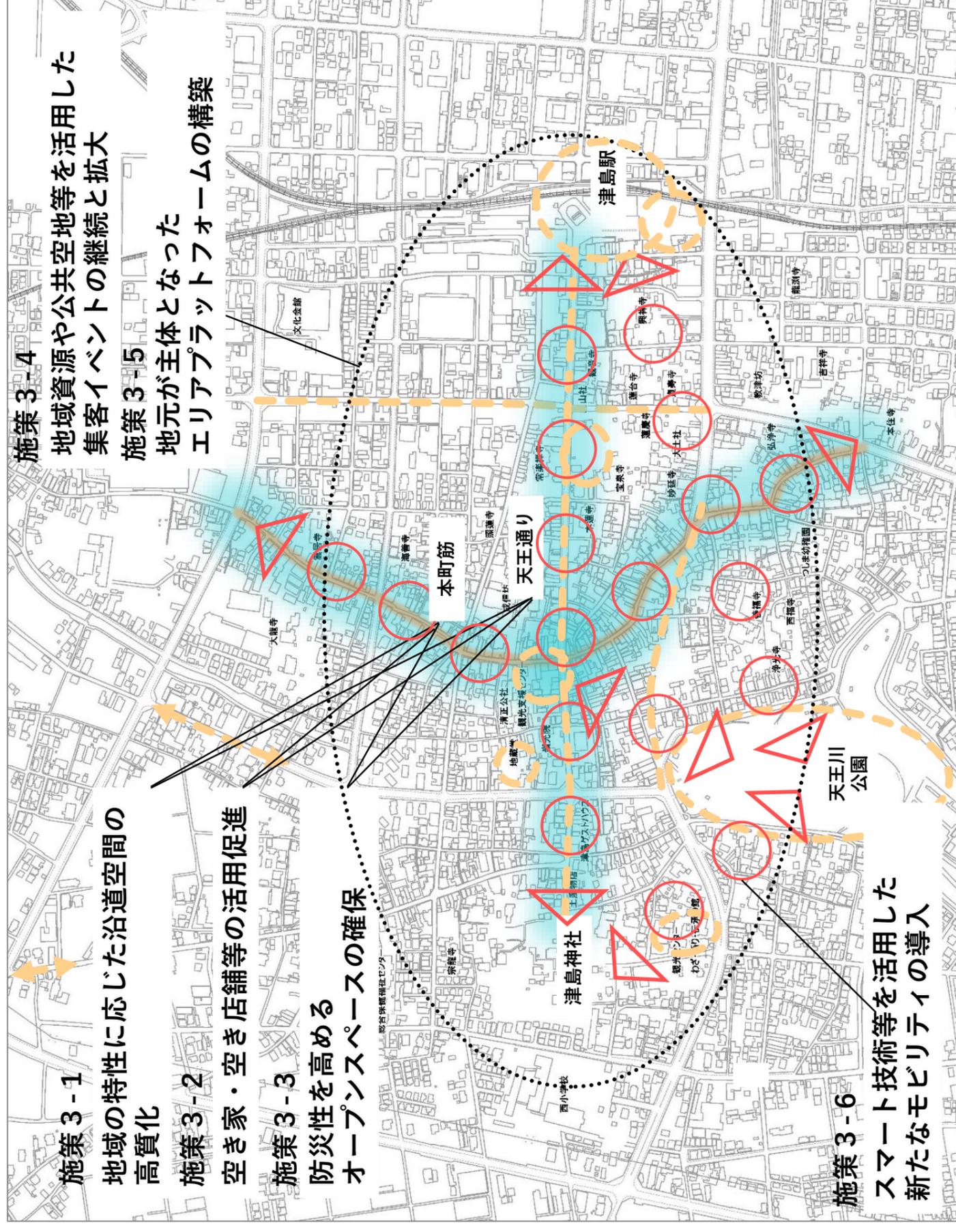
**地元が主体となった
エリアプラットフォームの構築**

新たなチャレンジを町ぐるみで協力して実施

施策 3-6

**スマート技術等を活用した
新たなモビリティの導入**

回遊性向上・まちなかでの滞在時間の延伸



施策 3-4

**地域資源や公共空地等を活用した
集客イベントの継続と拡大**

施策 3-5
**地元が主体となった
エリアプラットフォームの構築**

施策 3-1
**地域の特性に応じた沿道空間の
高質化**

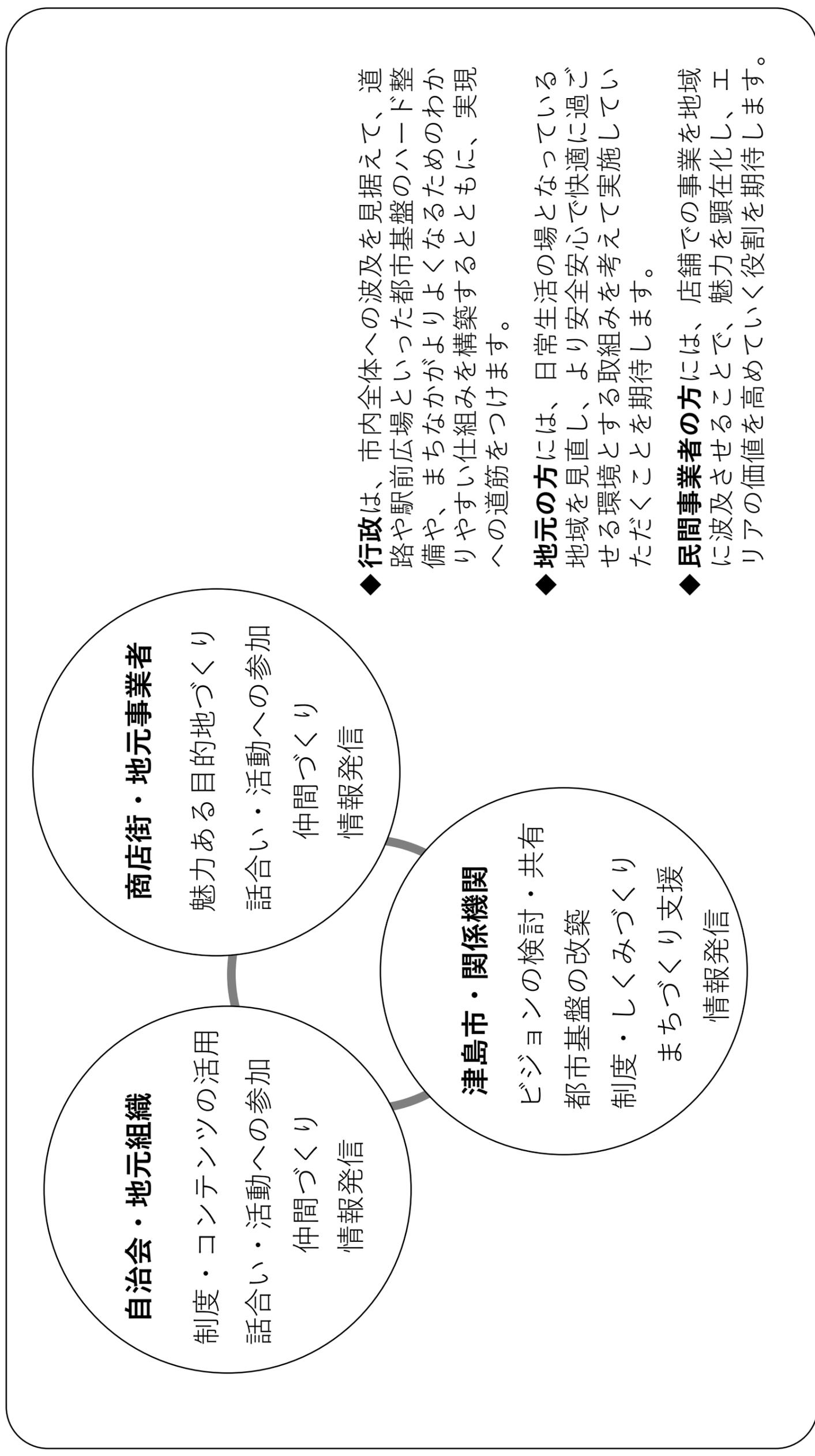
施策 3-2
空き家・空き店舗等の活用促進

施策 3-3
**防災性を高める
オープンスペースの確保**

施策 3-6
**スマート技術等を活用した
新たなモビリティの導入**

6. 継続的な構想の推進に向けて

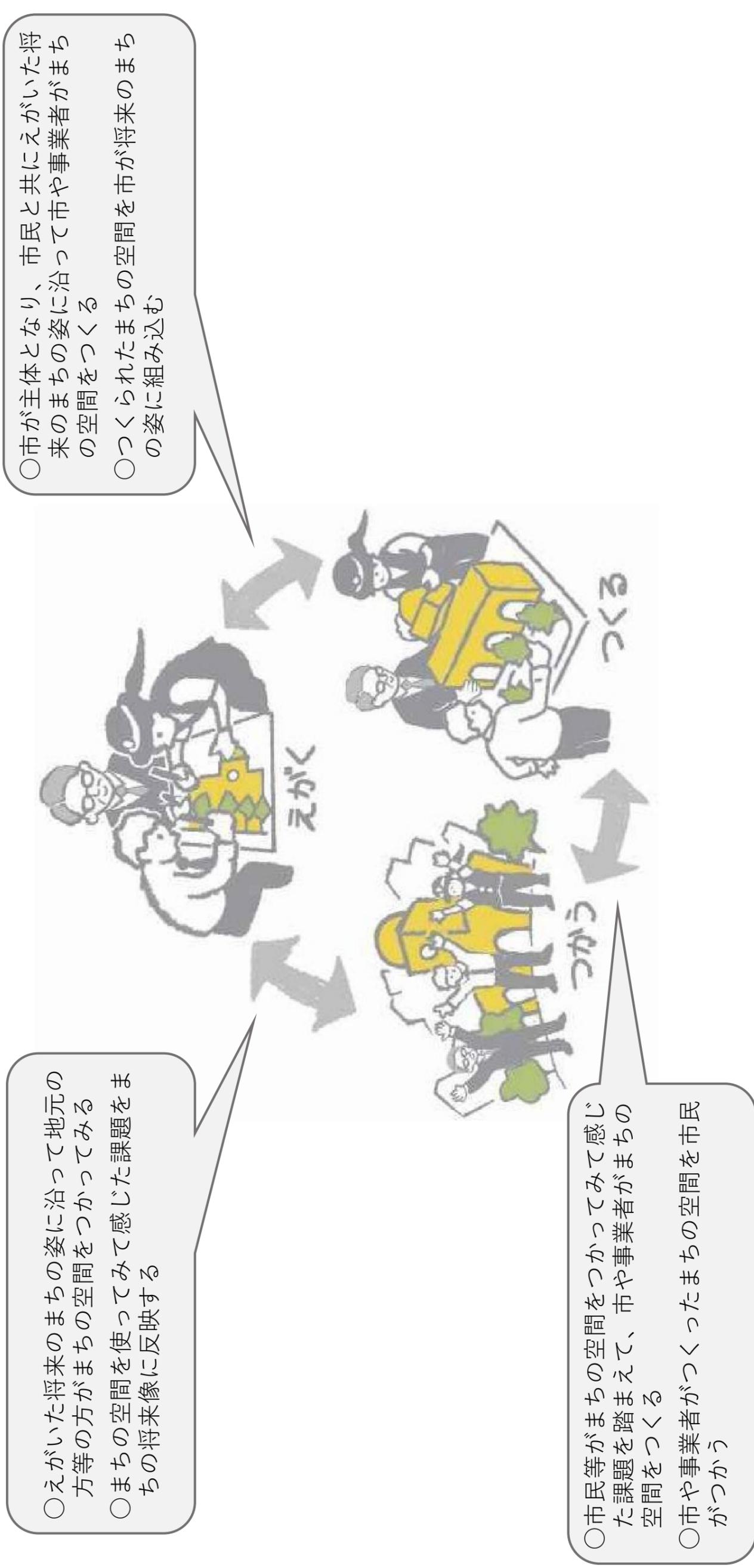
- ✓ 「つしまちぐらし」を実現するためには、行政、地元住民、民間事業者のそれぞれが得意分野を活かして、連携して取り組むことが大切です。構想を策定するだけでなく、取組を推進するためにそれぞれが適切な役割分担の下に「権利と責任」を果たしていくことが重要です。



6. 継続的な構想の推進に向けて

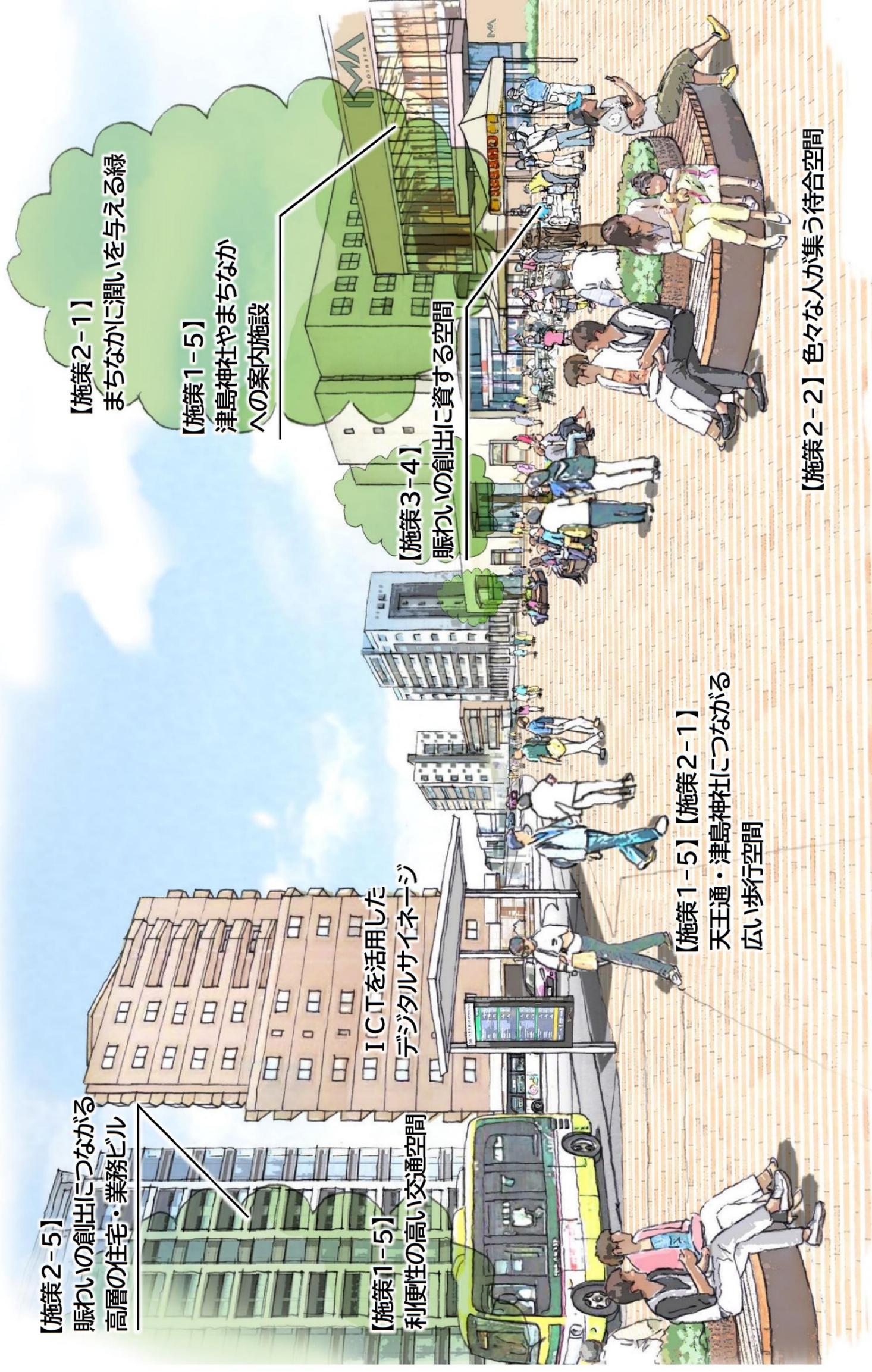
- ✓ 本構想に位置づけられた取り組みを進めるにあたっては、市が主体となって実施すべき施策を推進していくことを前提としつつ、多くの施策が多様な主体と連携していくことが必要です。
- ✓ このため、市が主体となり市民と将来のまちの姿を「えがく」とともにそれを共有すること、市や事業者が主体となりまちを「つくる」こと、地元の方や民間事業者等の方が主体となりまちの空間を「つかう」ことを相互に関連付けながら施策を推進し、将来像の実現を図っていきます。

■ 計画の進め方イメージ



7. 各エリアのイメージ図

駅前広場周辺のイメージ



駅周辺エリアのイメージ



歴まちエリアのイメージ

【施策3-1】
低層を中心とし、本町筋や津島神社に
つながる落ち着いたまちなみ

【施策2-1】
電線・電柱のないすっきりとしたまちなみ
段差のない歩行者中心の道路空間

【施策3-2】
空き家等を活用した店舗等

【施策3-1】
店先でゆったりできる店舗

【施策3-6】
気軽にまちなかを回遊できる
パーソナルモビリティ

【施策2-1】 まちなかに潤いを与える緑

【施策2-2】 【施策3-3】 空地を活用した身近な交流スペース



神社公園エリアのイメージ

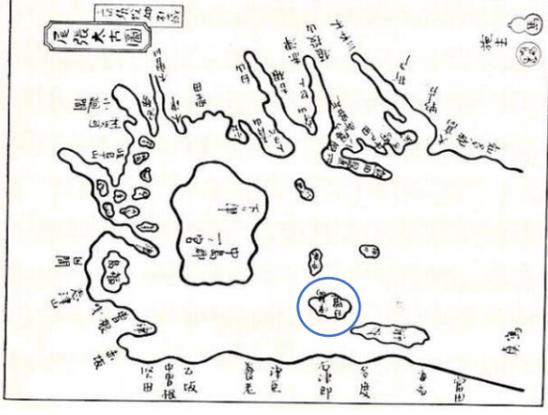


別添資料9 津島神社周辺の歴史

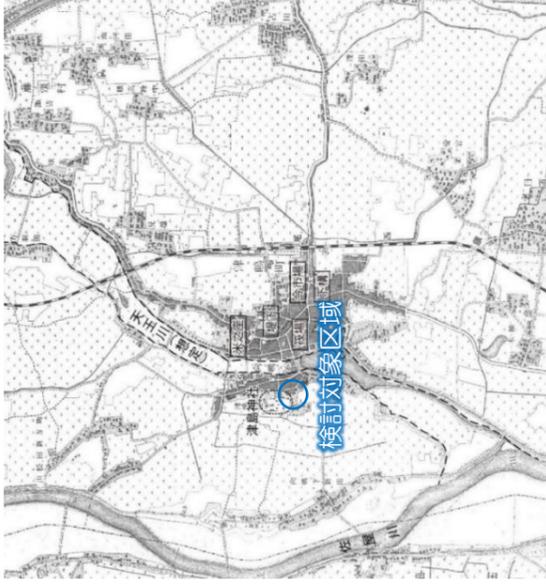
1. 対象地の主な歴史

540年	・津島神社創建
717年	・尾張太古図に津島は 伊勢湾海中の一小島 として描かれている。【資料1】
鎌倉時代	<ul style="list-style-type: none"> ・京都と鎌倉をつなぐ東海道の往来が盛んであり、津島湊も、天王川沿いの湊として、伊勢や桑名との往来があったとされ、湊町として発展した。 ・津島神社は、神仏習合の祭神牛頭天王を祭る疫病退散の神社で、疫病が流行した中世に厚く信仰され、全国からは多くの参拝客が訪れた。 ・このように検討対象区域は、津島神社の門前町としても発展した。
南北朝時代末	<ul style="list-style-type: none"> ・船が停泊する「湊」、積み込んでいた物資を販売する「市」、物資を積み降ろし中継する「問」という機能を有する中世の小都市（湊町）になっていた。【資料2】、【資料3】
戦国期 (16世紀)	<ul style="list-style-type: none"> ・大地主・酒屋・武器商人・土倉（金融業）あるいは廻かい船せん業者・馬借（運輸業）等の富裕層が、自治組織「惣」を作り上げ、津島の「津島五ヶ村」の政治経済を支えていた。 ・「津島五ヶ村」は、現在に至るまで尾張津島天王祭のときに車楽舟を出す地区である。
—	<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代から江戸時代にかけて天王信仰の布教者である津島御師が全国の村々を廻り津島神社の繁栄に大きく貢献した。
江戸時代	<ul style="list-style-type: none"> ・天明年間(1781～89年)まで津島には木曾川の支流の天王川が注いでいて、天王川公園辺りに津島湊という川湊があり、津島天王社（現津島神社）の門前町として、また交通の要衝としてにぎわった。【資料4】 ・天王川は土砂の堆積と治水によって水量は減り、天明5年(1785)には天王川公園北端辺りで堤が築かれ、北側の河原は美しい蓮田に姿を変えた。
明治時代	<p>【写真1】、【写真2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津島を含む木曾川の沿岸地域は、たびたび水害にみまわれる地域であったことから、明治政府による木曾川大改修工事が明治20年(1887)より開始された。 ・明治34年(1901)に佐屋川と天王川の合流地点の締切り工事が完了したことから、津島湊は封鎖され、湊としての役目を終えた。 ・片岡春吉が開発した片岡式織機、及び染色整理加工の創意工夫により、毛織物産業が津島の主産業となり発展の原動力となった。春吉はその成果を独占することもなく、尋ねてくる人にはその技術をすべて教えたことにより、津島も含めた尾張西部地方は毛織物産業地帯として発展した。 <p>【天王川その後】 天王川の名残である丸池を中心とした天王川の河川敷跡は、現在、天王川公園となっている。 その後、大正8年(1919)頃より蓮田を埋め立てて、町並みが形成された。</p>

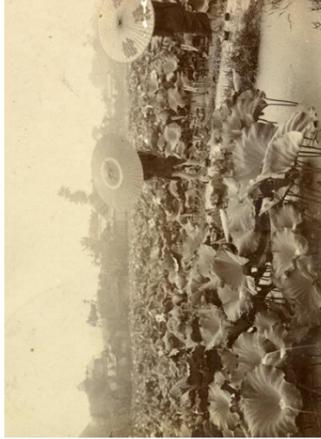
【資料1】尾張太古図



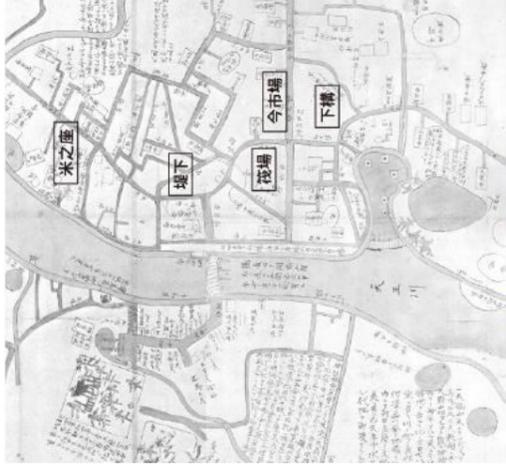
【資料3】津島神社と天王川の位置



【写真1】当時の蓮田の様子



【資料2】「市」「問」として発展した際の天王川と津島五ヶ村



天王川と津島五ヶ村の位置
資料：『尾張国海西郡津島之図』をもとに作成

【資料4】天王川を東から見た図



【写真2】天王川公園の現在の景観



2. 津島神社の歴史

(1) 津島神社の歴史

- 津島神社は、欽明天皇元年（540年）創建と伝わる**牛頭天王社の総本社**である。**全国に3000社以上**の**分霊社**があり「西の八坂神社、東の津島神社」とも言われ、疫病や厄除けの神様として親しまれてきた。織田信長や豊臣秀吉の信仰も深く、徳川家康の四男松平忠吉の妻からは本殿、豊臣秀吉からは桜門を寄進され、これらは**国の重要文化財**にも指定されている。



(2) 歴史的な建築物

津島神社楼門(国指定重要文化財)

- 天正20年（1592）の建立と考えられ、豊臣秀吉の寄進と伝えられている。



津島神社南門(県指定有形文化財)

- 慶長3年（1598）7月、豊臣秀吉の病氣平癒のため、子の秀頼が発願し、当時の清州城主福島正則が建立したと伝えられている。



津島神社本殿(国指定重要文化財)

- 慶長10年（1605）に徳川家康の四男で、当時尾張藩主であった松平忠吉が病弱のため、妻の政子（井伊直政の娘）の方から夫の健康祈願のために寄進された建物。

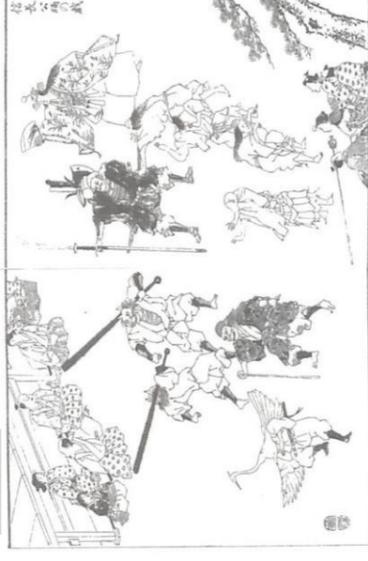


3. 歴史上の人物と検討対象区域との関係

(1) 織田信長との関係性

- 織田信長は津島衆と言われる地元の有力者らを家臣にして、大きく力を伸ばした。『信長公記（江戸時代初期）』には、信長が津島の堀田道空屋敷で踊りをした記事などが記されている。
- 織田信長が**天王橋から尾張津島天王祭を見物**したとの記録が『大祭筏場車記録』に残っている。

信長公記



清正公社



(2) 加藤清正との関係性

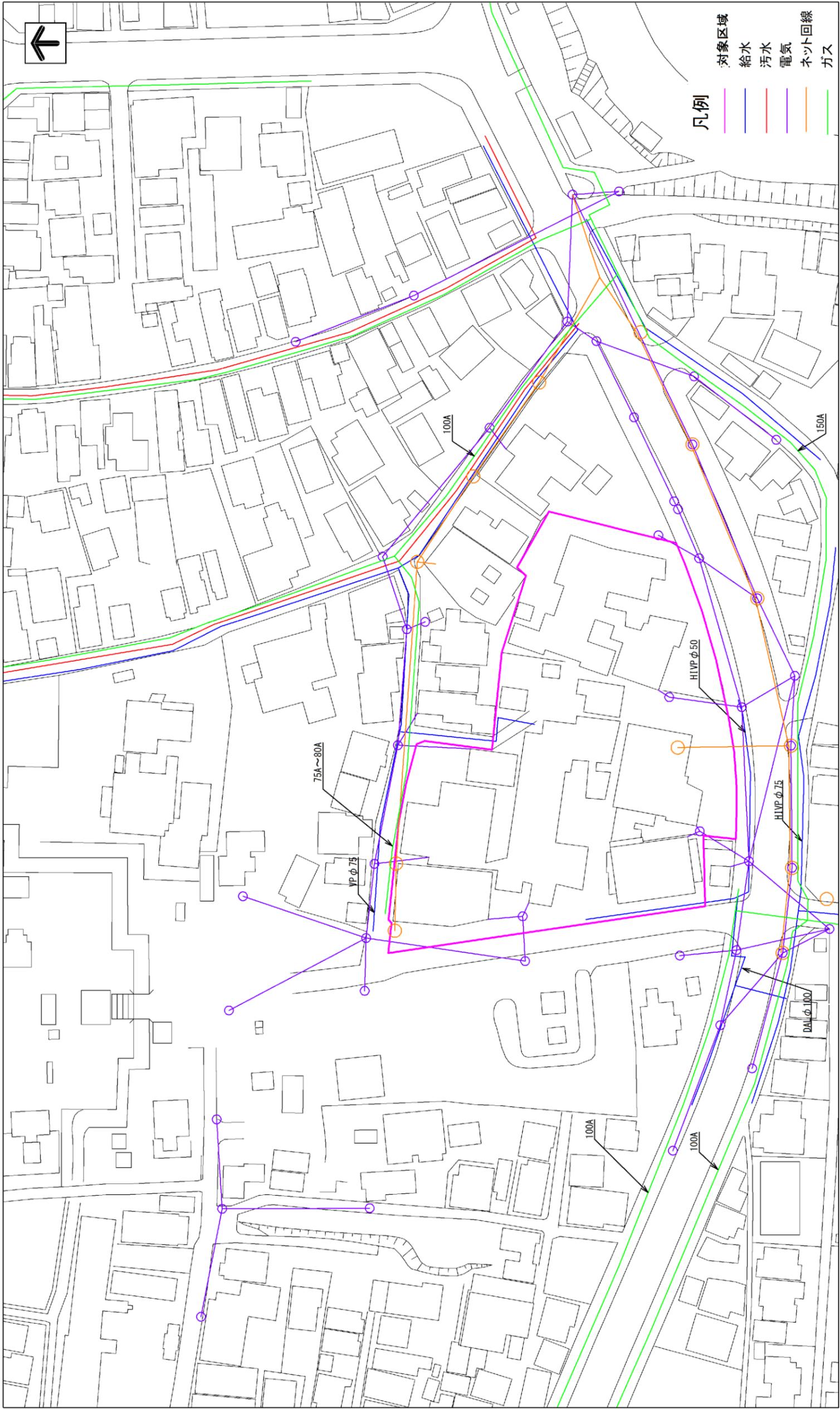
- 現在の名古屋市中村区で生まれた加藤清正は幼少のころに父を亡くし、母と共に津島（叔父のところ）に移った。明治18年（1885）、清正の叔父の屋敷跡と伝えられる上河原町に、**清正の徳をしのんで清正公社が建てられた**。
- 叔父の屋敷で幼少の清正が鬼の面をかぶって泥棒退治をした逸話が残っており、それをもとにして始まった祭りが「鬼祭（市指定無形民俗文化財）」である（ただし、現在は休止中である）。
- 妙延寺は愛知県下で戦国時代からあった最も古い寺子屋で、加藤清正が手習いを受け、**妙延寺には、清正が習字紙を掛けた松**があった。

清正幼少盗賊退治之図

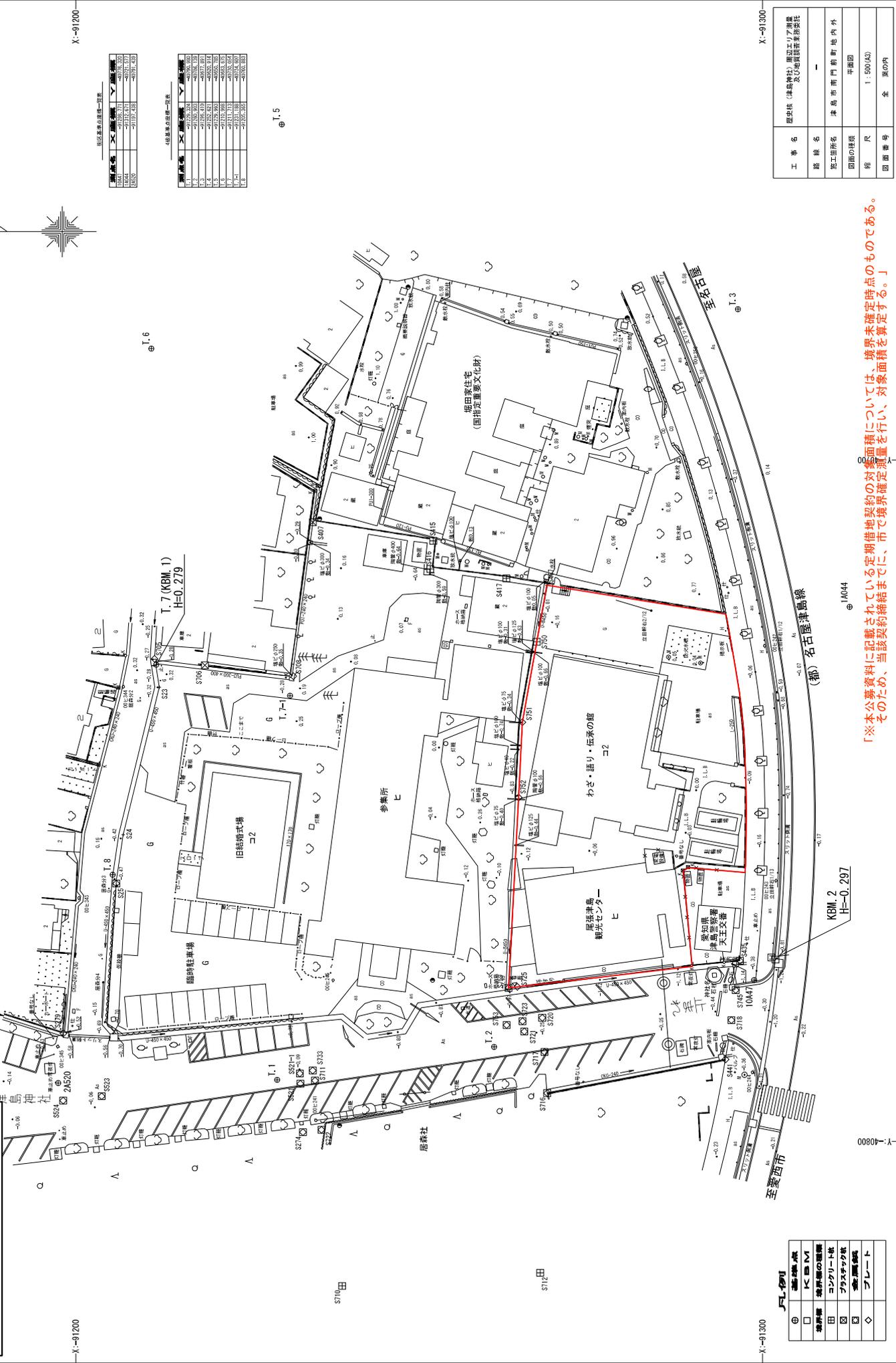


妙延寺





別添資料11 地形測量図



X-91200

X-91200

X-91300

X-91300

旧田家住宅建坪一覽表

棟名	面積
本館	2,174.71
庫裏	4,079.37
2F	4,079.37
計	10,333.45

旧結核科棟建坪一覽表

棟名	面積
1F	2,726.26
2F	2,726.26
3F	2,726.26
4F	2,726.26
5F	2,726.26
6F	2,726.26
7F	2,726.26
8F	2,726.26
9F	2,726.26
10F	2,726.26
計	27,262.60

凡例

○	境界線
△	境界線の距離
□	コンクリート床
◇	ガラス張り床
■	築上階床
◇	プレート

工事名	旧田家住宅(津島神社) 第五工区測量
路線名	—
施工場所名	津島市南門前町地内外
測定の種類	平面図
縮尺	1:500(A3)
図面番号	全葉の内

1/1044

(郡) 名古屋高橋線

KBM. 2
H=0.297

「※本公算資料に記載されている定期借地契約の対案面積については、境界未確定時点のものである。そのため、当該契約締結までに、市で境界確定測量を行い、対象面積を算定する。」

別添資料 12 堀田家住宅壁面写真



津島市教育委員会社会教育課
と協議の上、塗り替え可能。



別添資料 13 北側水路整備予定箇所

■：北側水路の整備予定箇所。水路敷地幅 50cm～100cm 程度を想定している。既存水路の一部が津島神社敷地に入っているため、本市が令和 6 年 12 月までに市所有地側(南側)に整備しなす。

水路敷地を定期借地に含めるか否かは、本市と活用事業者の協議により決定する。

